# Ⅲ. 研究・活動報告

## （１）七尾城の実態解明を目指して～令和元年度の活動報告～

室員　萩山　教俊

七尾城跡は国指定の史跡であり、市民の皆様や県内外の方から愛される七尾市が誇る国民共有の「財産」である。七尾城は今から 500 年ほど前に戦国大名であった能登畠山氏が築いた山城で、能登の政治・経済・文化の拠点として機能しており、特徴としては天然の要害地形を利用した縄張りと、山上に築かれた大規模な石垣がある。城郭構造としては、大規模な堀切りによって分断された曲輪群の集合体とみられ、能登畠山氏から上杉氏、前田氏が拠点とした歴史性があり、城郭と城下が一体的に残る現状の姿は、その歴史の最終段階の状況である。

七尾城跡本丸と七尾湾

今年度も七尾城に関する取り組みとして、引き続き、除草作業、看板設置、遊歩道の修繕・整備などの日常管理をメインとして行ってきた。近年はお城ブームということもあり七尾城跡を訪れる観光客や市民は増加傾向にあるが、昨年度は、台風や大雨の影響で本丸駐車場へと続く県道が被害を受け、来城者に不便を強いることとなった。６月に通行止めとなっていた県道城山線が通行止め解除されると、県内外から待ちわびていたかのようにとても多くの方が七尾城跡へと訪れていた。来城者の中には、以前来た時には崩落で登れなかったが開通したという情報を聞きつけて登りに来たという方が多く見られた。他にも、「通行止めは解除されたのか」という問い合わせも多く寄せられた。七尾城跡の人気ぶりを実感するとともに、日常管理や安全管理の必要をより強く感じた。

県内外の車で賑わう本丸駐車場

また、今年度は、復旧石垣についての資料や現地調査、調度丸の災害復旧工事に伴い発見した石垣の緊急調査、城と城下を繋いだ当時の主要道と見られている大手道（現在の旧道）の所在、構造解明のための発掘調査といった、七尾城跡の実態を新たに解明する取り組みを行った。

調度丸の調査については、調度丸北側斜面の災害復旧工事に取り掛かる際に、幅 4.2mの崩落地の東

西両壁に石垣の一部ではないかとみられる巨石が確認されたため遺構保存に万全を期すため、現写真撮影と平板測量、断面図作成を行った。

大手道の発掘調査については、11 月から 12 月末まで約 2 ヶ月実施した。平成 19 年に行われた能越自動車道建設に伴う発掘調査では、大手道とされる幅 3mの石組みの道路状遺構が検出されたため、その延長上にあたる現在の旧道部を調査区画とし、3 箇所のトレンチを設定した。結果としては当時の遺物や、道路状の遺構が一ヵ所、地形を大きく造成、整地した痕跡を発見することが出来たが、明確に大手道だと断定できる遺構は検出することが出来なかった。

※図面等詳細は本誌 P 27 掲載、「令和元年度七尾城大手道（旧道）発掘調査の概要」を参照。

石垣図面測量状況

図面トレース作業

七尾城跡の全貌解明にはまだほど遠く、これからもっと発掘調査や文献調査を行っていかなければならない。七尾城跡の魅力は、苔むした石垣やその眺望などが主にあげられる。しかしながら私自身、最大の魅力は、「解明されていないがゆえに城跡に上がるたびに当時への思いやロマン、考えを深めることが出来ること」ではないかと思っている。旧道の解明に至らなかったことは、残念であるが、今後の課題が見えたとともに、当時の想像が膨らんでますます魅力的に感じた。

今後もお城ブームで七尾城跡を訪れる人は増えるだろう。県内外のこれから登る人も、もう一度登る人も、苔むした石垣やその眺望だけではなく当時の七尾城を想像し、歴史的なロマンや当時の七尾城を感じて欲しい。

# 史跡七尾城跡における石垣の復旧履歴から見た現存遺構の評価について
## ―保存整備に向けた基礎的検証―

善端　直

## １．はじめに

七尾城は、能登畠山氏が戦国時代前期後半（16 世紀前半）に港付近の府中「守護所」から新たに石動山系の要害に築いた領国支配拠点である。その実態は、標高 300mの本丸を軸にして山麓まで館を連ねる山城と、山城から続く山裾に広がる城下町が一体的に形成されたもので、周辺の山岳寺院「石動山天平寺」や守護所が置かれていた「能登府中」と連動していた。

廃城後の七尾城跡の動向は、江戸時代までは加賀藩の管理下に置かれるが、同時代後半には人々が訪れる旧跡となり、今日に至っている。建物が残っていない七尾城跡を散策する来訪者の大半は、中心部の本丸や桜馬場北側の壮大な野面積み石垣の迫力に魅了されるが、こうした石垣をはじめとした中心部の遺構群は崩落と復旧を繰り返し行ってきていることが本城跡の特徴であり、今後の保存整備を進める上で過去の履歴の検証と分析が不可欠な課題と考えられる。

本稿は、これまでに実施してきた整備復旧事業のうち、石垣の復旧履歴と現状遺構を比較、検討しながら評価し、今後の史跡整備や復旧事業に向けた基礎資料として提示することを目的とする。

## ２．対象

範囲は、市が主体となって整備復旧事業を実施している山城中心部とする。具体的には、本丸から桜馬場の北側斜面に所在し、復旧履歴が書類確認出来る石垣群とする（図 1）。

年代は、補助事業申請書等の記録が初見される昭和 32 年（1957）から現在までとする。

表記（石垣の番号）は、平成 27 年（2015）に纏めた『史跡七尾城跡石垣調査報告書』に基づく。

## ３．整備復旧履歴

整備復旧履歴は、表１にこれまで実施してきた主な復旧事業を実施時期が古い事例から、遺構と便益施設に大別したものを同一箇所ごとにまとめて羅列した。この表１からは、遺構の被害状況や集中箇所、柵・階段や説明板などの便益施設の耐久年数などの動向を読み取ることが出来た。

遺構は、本丸北側石垣群と桜馬場北側石垣群、斜面では、調度丸北側斜面、九尺石北西部斜面、樋の水周辺斜面で崩落が頻発していることが確認出来る。

便益施設は、短期間に損傷するものが多い傾向が読み取られる。段階的に整備している園路の階段や手摺、案内・説明板が順次損傷している状況で、随時応急措置してきているが、全面改修の必要に迫られている。以下では、石垣復旧の履歴を記述する。

### （1）石垣復旧の概要

石垣の崩落は、城内各所で確認できるがその大半は未措置の状態である。

復旧履歴が確認できる石垣としては、本丸北側４基（A0101～104)、遊佐屋敷と桜馬場を区画する１基（A0301)、桜馬場北側４基（Ａ0402～405)、遊佐屋敷北側１基（Ａ0301)、調度丸西側２基（A0811、812）の中心部５ケ所である。

# 表１　中心部における整備復旧履歴一覧表

| No. | 区分 | 年度 | | | 箇所 | 石垣(遺構)No. | 概要 | 申請書 | 補助 | 事業費 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石垣 | 昭和 | 32 | (1957) | 調度丸西側 | A0811、A0812 | 積み直し(範囲不明) | × | 国 | 500 | |
| 2 | 石垣 | 昭和 | 33 | (1958) | 本丸北(最下段・全体) | A0103(17号) | 積み直し(西端から18.5m) | × | 国 | 1,200 | 最下段(工事内容県書類で確認) |
| 3 | | | | | 本丸北(中段・全体) | A0102(18号) | 積み直し(西端から185m) | × | 国 | | 中断(　〃　) |
| 4 | | | | | 本丸北(上段・全体) | A0101(19号) | 積み直し(西端から22m) | × | 国 | | 上段(1折れ)(　〃　) |
| 5 | 石垣 | 昭和 | 33 | (1958) | 桜馬場北(下段・東側) | A0404(10号) | 積み直し(東端から21m) | × | 国 | | 下段(　〃　) |
| 6 | | | | | 桜馬場北(中段・東側) | A0403(11号) | 積み直し(東端から21.1m) | × | 国 | | 中段(　〃　) |
| 7 | | | | | 桜馬場北(上段・東側) | A0402(12号) | 積み直し(東端から20.5m) | × | 国 | | 上段(　〃　) |
| 8 | 石垣 | 昭和 | 33 | (1958) | 桜馬場と遊佐屋敷の境界 | A0301(16号) | 積み直し(範囲不明) | × | 国 | | |
| 9 | 石垣 | 昭和 | 34 | (1959) | 本丸登口 | A0104(20号) | 積み直し(全面、24.5m) | × | 国 | 250 | 登り石垣カ(　〃　) |
| 10 | 石垣 | 昭和 | 34 | (1959) | 遊佐屋敷北西石垣 | A0301(15号) | 積み直し(東端から3.25m) | × | 国 | | 北側カ(　〃　) |
| 11 | 説明板 | 昭和 | 34 | (1959) | 調度丸 | | 七尾城説明看板1基の新設 | × | 国 | | 木製柵付(　〃　) |
| 12 | 石垣 | 昭和 | 41 | (1966) | 本丸北(最下段) | A0103(17号) | 積み直し(基礎、間詰めをモルタル) | ○ | 国 | 1,300 | S.38.6豪雨で再崩落 |
| 13 | 石垣 | 昭和 | 42 | (1967) | 本丸北(中段) | A0102(18号) | 積み直し(基礎、間詰めをモルタル) | ○ | 国 | 3,800 | S.38.6豪雨で再崩落 |
| 14 | | | | | 本丸北(上段) | A0101(19号) | 積み直し(基礎、間詰めをモルタル) | ○ | 国 | | |
| 15 | 旧道 | 昭和 | 42 | (1967) | 樋の水～調度丸 | | 延長142m、幅員3.0m | □ | | 686 | 現在の石段、側溝等の整備 |
| 16 | 休憩所 | 昭和 | 42 | (1967) | 本丸 | | 19.4㎡ | □ | | | 現在なし |
| 17 | ベンチ | 昭和 | 42 | (1967) | 本丸(北側) | | 4基 | □ | | | 写真では3基 |
| 18 | 道路 | 昭和 | 42 | (1967) | | | 開拓道路(現県道城山線) | × | | | 自動車道 |
| 19 | 駐車場 | 昭和 | 42 | (1968) | 本丸駐車場 | | 本丸駐車場の造成 | × | | | 長屋敷群の曲輪を造成 |
| 20 | 旧道 | 昭和 | 43 | (1968) | 樋の水～赤坂口 | | 延長1,100m、幅員2.0m | × | | 300 | 切り盛りして造成 |
| 21 | 園路 | 昭和 | 45 | (1970) | 九尺石入口～安寧寺 | | 延長370m(道路255m、階段78m) | □ | | | 木製階段、図面無し |
| 22 | 説明板 | 昭和 | 48 | (1973) | 調度丸 | | 七尾城説明看板1基の作り替え | □ | | | S34説明板の作り替え |
| 23 | 展望台 | 昭和 | 48 | (1973) | 展望台 | | 展望台、遊歩道等整備 | □ | | | |
| 24 | 旧道・斜面 | 昭和 | 50 | (1975) | 樋の水東側斜面 | | 排水、斜面復旧 | ○ | 国 | 5,000 | 水路、布団カゴ、玉石土羽 |
| 25 | 園路 | 昭和 | 56 | (1981) | 二の丸～袴腰 | | 昭和45年度園路の再整備 | ○ | 国 | 7,800 | 現在の木製階段等の原形 |
| 26 | 説明板 | 昭和 | 56 | (1981) | 二の丸 | | 二の丸北側看板の新設 | | | | |
| 27 | ベンチ | 昭和 | 57 | (1982) | 本丸(北側) | | 3基、擬木製(現在のベンチ) | □ | | | S42(No.16)の再整備 |
| 28 | 説明板 | | | | 袴腰入口 | | 不動滝説明板1基 | □ | | | 現在なし |
| 29 | 説明板 | | | | 二の丸等7箇所 | | 二の丸等遺構説明板7基 | □ | | | |
| 30 | 柵 | 昭和 | 58 | (1983) | 調度丸～本丸駐車場の間 | | 57m、擬木柵(本丸駐車場・遊歩道北側) | □ | | | 現在の擬木柵 |
| 31 | ベンチ | | | | 調度丸、本丸駐車場 | | 調度丸2基、本丸駐車場3基 | □ | | | 5基、現在の擬木製ベンチ |
| 32 | 階段 | 昭和 | 59 | (1984) | 本丸北・赤坂登口 | | 木製丸太階段、本丸86段・赤坂62段 | □ | | | 国定公園整備事業として |
| 33 | ベンチ | | | | 二の丸、安寧寺入口 | | 木製、二の丸2基、安寧寺入口2基 | □ | | | 展望台のベンチ・案内板 |
| 34 | 標識 | | | | 櫻馬場 | | 木製、本丸・二の丸等案内板1基 | □ | | | 等も整備 |
| 35 | トイレ | 昭和 | 62 | (1987) | 本丸駐車場南東 | | 本丸駐車場トイレ | | | | 指定地外 |
| 36 | 柵 | 昭和 | 63 | (1988) | 本丸駐車場 | | 90m、木製丸太柵 | □ | | | 本丸駐車場西側(清二氏石碑側) |
| 37 | 園路 | | | | 温井屋敷～二の丸北東斜面 | | 木製階段2か所、園路2か所 | □ | | | S56修理箇所の再修理 |
| 38 | 説明板 | | | | 調度丸 | | 七尾城説明看板1基(再整備) | □ | | | S48(No.16)の作り替え |
| 39 | 説明板 | | | | 袴腰入口 | | 不動滝説明板1基(再整備) | □ | | | S57(No.20)の作り替え |
| 40 | 石垣 | 平成 | 元 | (1989) | 桜馬場北(下段・東側) | A0404 | 積み直し。26.5m。裏込めにコンクリ杭 | ○ | 国 | 14,000 | S60の輪島沖地震の被害 |
| 41 | 旧道 | 平成 | 11 | (1999) | 樋の水周辺 | | チップ補装道(幅員1.5×90m) | □ | 県 | | 自然歩道整備事業(県) |
| 42 | 柵 | | | | 本丸駐車場西から園路入口 | | 木製ロープ柵(78m) | □ | 県 | | 自然歩道整備事業(県) |
| 43 | 説明板 | | | | 調度丸 | | 2基 | □ | 県 | | 自然歩道整備事業(県) |
| 44 | 誘導版 | | | | 桜馬場入口、袴腰東 | | 3基(矢印看板) | □ | 県 | | 自然歩道整備事業(県) |
| 45 | 園路 | 平成 | 12 | (2000) | 二の丸北東斜面 | | 中段から堀底間の手摺の修繕 | □ | | | |
| 46 | 階段 | 平成 | 14 | (2002) | 本丸北登口 | | 87段 | □ | | | S59(No.23)の作り替え |
| 47 | 園路 | 平成 | 18 | (2006) | 本丸、二の丸、三の丸 | | 階段、手摺等 | □ | | | |
| 48 | 説明板 | | | | 二の丸 | | 二の丸北側説明板の板面改修 | □ | | | S56(No.16)設置看板の板面変更 |
| 49 | 斜面 | 平成 | 19 | (2007) | 本丸駐車場入口本丸側 | | 植生ネット | ○ | 国 | 2,121 | H19豪雨災害復旧 |
| 50 | 旧道・斜面 | | | | 樋の水北側 | | 植生ネット、布団カゴ | ○ | | | |
| 51 | 石垣 | 平成 | 19 | (2007) | 本丸登口、桜馬場北(最下段) | A0104、A0405 | 発掘調査・測量 | ○ | 国 | 4,017 | H19能登半島地震で崩落 |
| 52 | | 平成 | 20 | (2008) | 本丸登口、桜馬場北(最下段) | A0104、A0405 | 積み直し | ○ | 国 | 14,190 | H19能登半島地震で崩落 |
| 53 | 斜面 | 平成 | 20 | (2008) | 調度丸南側 | | 植生基材吹付 | ○ | 国 | 11,360 | H19豪雨災害復旧 |
| 54 | | | | | 本丸登口石垣西側 | | 植生基材吹付 | ○ | 国 | | |
| 55 | | | | | 遊佐屋敷南側(外枡形北) | | 植生基材吹付 | ○ | 国 | | |
| 56 | | | | | 九尺石北(前方)遊歩道 | | 木製土留め(3段)、植生ネット | ○ | 国 | | |
| 57 | | | | | 調度丸東側 | | 植生基材吹付 | | | | |
| 58 | | | | | 調度丸北側2か所 | | 木製土留め(各1段)、植生ネット | ○ | 国 | | |
| 59 | 旧道 | | | | 調度丸・寺屋敷西側石段 | | 石段積み直し | ○ | 国 | | |
| 60 | 案内看板 | 平成 | 20 | (2008) | 本丸～三の丸 | | 6基、案内(誘導)看板 | □ | | | 指定地内5基 |
| 61 | 看板イラスト | | | | 本丸駐車場 | | 本丸駐車場大型看板イラスト交換 | □ | | | 指定地外 |
| 62 | 園路 | 平成 | 21 | (2009) | 二の丸北側斜面 | | 階段、手摺 | □ | | | H18修理箇所の再修理 |
| 63 | 園路 | | | | 三の丸北側斜面 | | 階段、手摺 | □ | | | S56修理箇所の再修理 |
| 64 | 旧道 | | | | 三の丸東側旧道 | | 117m、ロープ手摺 | □ | | | 新設 |
| 65 | 斜面 | 平成 | 22 | (2010) | 九尺石北(前方)遊歩道 | | 木製土留め(4段)、布団カゴ2段、植生ネット | ○ | 国 | | H20修理箇所の再修理 |
| 66 | | | | | 調度丸南側 | | 木製土留め(2段)、植生ネット | ○ | 国 | | |
| 67 | トイレ | 平成 | 25 | (2013) | 本丸駐車場南東 | | トイレの建て替え | □ | | | S62(No.24)の建て替え |
| 68 | 柵 | 平成 | 26 | (2014) | 本丸駐車場北側 | | 擬木柵の建て替え(コンクリからプラへ) | □ | | | S58(No.コンクリ柵設置年、不明 |
| 69 | 階段 | 平成 | 28 | (2016) | 本丸北登口 | | 86段 | □ | 市 | 1,000 | H14(No.30)の作り替え |
| 70 | 斜面 | 平成 | 30 | (2018) | 九尺石北(前方)遊歩道 | | 布団カゴ14段 | ○ | 国 | 3,704 | H20修理箇所の再修理 |
| 71 | | | | | 桜馬場北東斜面 | | 植生ネット | ○ | 国 | | |
| 72 | 斜面 | 令和 | 元 | (2019) | 調度丸北側1カ所 | | テラセル工法 | ○ | 国 | 8,260 | H20(修理箇所の再修理 |

○文化庁補助事業　事業費：千円
□観光等補助事業

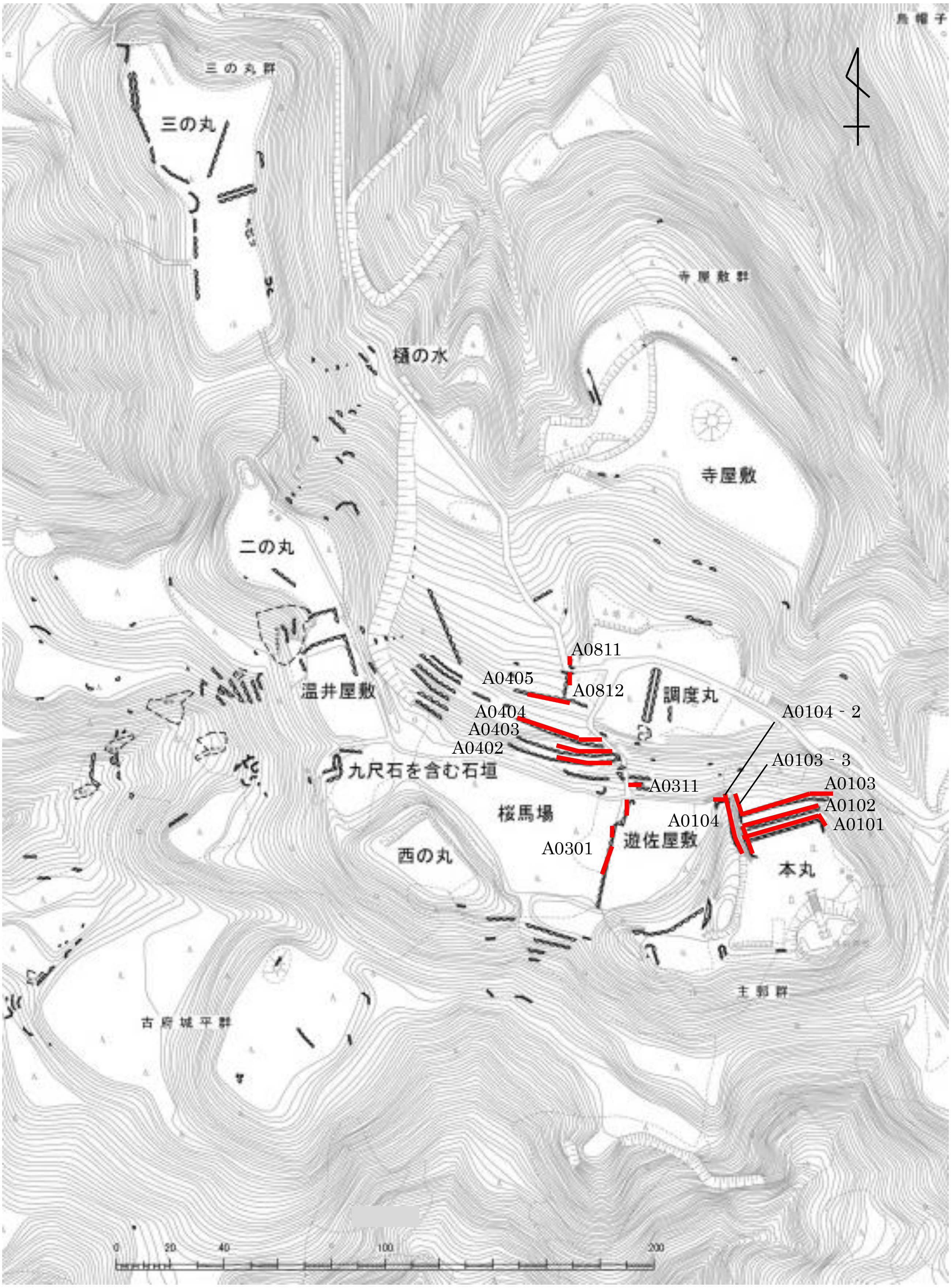



図１　中心部石垣復旧箇所位置図（赤線箇所）

## （２）履歴

### a.昭和 32 年(1957)度～３４年(1959)度

文化庁の国庫補助事業として、中心部の石垣復旧工事を３ケ年で実施している。

【昭和３２年度】　本年度の復旧事業の詳細については、関係書類が確認できないため不明であるが、現地観察から本年度は、A0405、A0811、A0812 が復旧されているとみられた。

A0405 は平成 20 年度復旧事業に伴う発掘調査成果及び石積の状況から、おおよそ上半１／３及び東西両端が復旧されているとみられる。特に、裏込めの状況が昭和 33 年度～34 年度復旧状況と共通性が見られることからも傍証される（写真 2、11、14）。

写真１　A0405 落石除去（H20 北東から）

写真２　A0405 上面（H20 東から）

A0811 は、西面の築石下段内に石積を調整したとみられる鉄棒が残存することや（写真 3、4)、基底部（根石）をはじめとした石積が不揃いなこと、下半部と上半部では築石の大きさが異なること、南面は西面に比べ小型の石材を一見貼り付けたような不自然に積み上げている状況から、全面積み直しの可能性が高い。A0812 もA0811 と同様、築石の不自然な状況から西面の上辺部および北側が積み直されているとみられる。A00811 とA0812 については、本来 1 連（基）だったものが、現在の出入り口（階段）の新設に伴い分断された可能性が高い。

写真３　A0811 全景（西から）

写真４　A0811 築石内鉄棒

【昭和３３年度】　A0101～103、A0301、A0402～404 で実施している（図 1）。復旧方針は、現状復旧を原則に、在石６割、新補石４割程度として対象範囲を積み直している。仕様は、根石を据える床堀 0.5m、築石控長 0.6m 前後、裏込め 0.5m～1.0mを基本としている。

本丸北側石垣３基は、西側（登り階段側）から東側に全体の２／３を復旧している（写真５、６）。A0101（上段）は５分勾配、延長 20m、高さ 2.5m～3.0m（根石 0.5mは含まない）で、西側から東側に延びた６m地点が北側にせり出す金折れ状（写真６の矢印）の形状となっている。A0102（中段）は３分勾配、延長１８m、高さ 2.0m、A0103 （下段）も３分勾配で、延長 18m、高さ 3.0m～4.0m に復旧している。上面平坦面の控え（幅）は、A0102 と A0103 ともに約 1.1 mである。なお、これら３基の形状は、昭和 41 年度～42 年度の再復旧に伴い失われている（詳細は後述）。

写真５　本丸北側石垣（昭和 33 年復旧前）

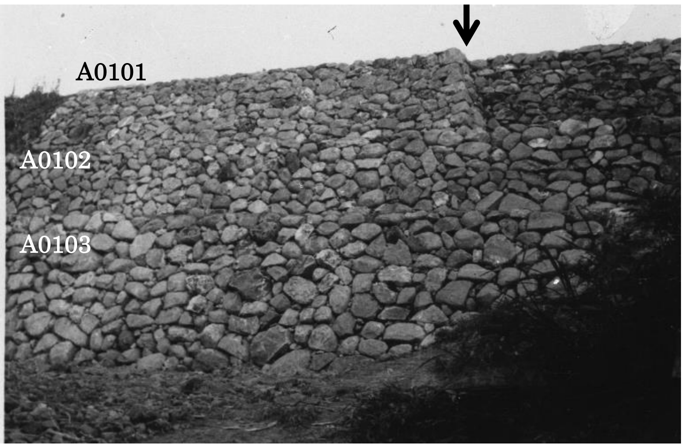


写真６　本丸北側石垣（昭和 33 年復旧後）

A0301 は塀の基礎となる南北軸の石垣で、北側が一旦東側に折れ曲がる金折れ状となっている。本石垣については、部分的に復旧している。北端北面が上辺 1.5m、下辺 2.0m、高さ 1.3m、西面が東側に一旦折れ曲る箇所で延長 2.5m、高さ 1.5m、金折れ部から南側の中央部では上辺 10.0 m、下辺 8.5m、高さ 1.3mが復旧されている（写真７、８）。こうした復旧箇所と未普及箇所は、石積の状況や石垣の勾配に違いが反映されていることが確認出来る。

なお、A0301 の北側延長線上の調度丸中央部には、A0801 が同一線上に所在するプランの共通性が確認されることから、縄張りに基準的な役割を果たした遺構と推察される。

写真７　A0301 北端（昭和 33 年復旧後）

写真８　A0301 中央（昭和 33 年復旧後）

A0402～404（桜馬場北側石垣）の３基は、東側（階段側）から全体の約 1／2 を復旧している。これらの石垣の高さは、地形状況から東側から西側に向けて高くなる。A0402 が３分勾配、延長 20.5m、高さ 0.7m～1.2m、A0403 が５分勾配、延長 21.5m、高さ 0m～2.5m、A0404 が５分勾配、延長 21m、高さ 0m～5.5mに復旧している（写真 9～11）。こうした、復旧痕跡は石垣の天端や勾配の状況から確認できる（写真 12）。なお、404 については、平成元年度に東側の未復旧箇所が崩落し、復旧していることから、本石垣は本年度と平成元年度に全面復旧（積み直し）されている。

写真９　A0402・403(昭和 33 年復旧後)

写真 10　A0404(昭和 33 年復旧中)

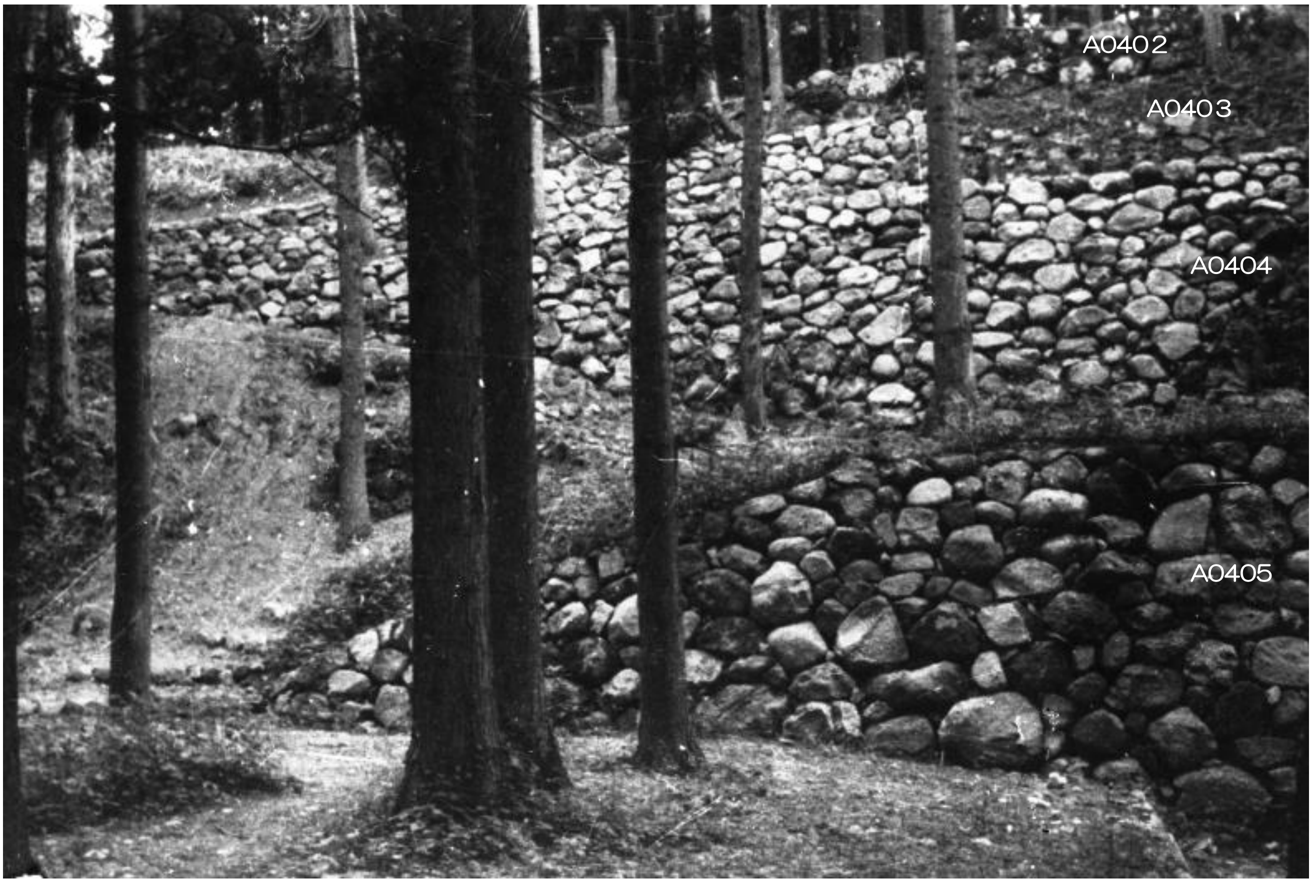



写真 11　桜馬場北側石垣(A0402～404、昭和 33 年復旧後)

写真 12　桜馬場北側石垣現況（東から）

（A０４０２、403 は矢印を境に石垣の天端や勾配の変化を確認できることから、矢印の手前が昭和 33 年復旧箇所と見られる。A0404 は昭和 33 年、平成元年の２度の復旧により全面積み直されている。）

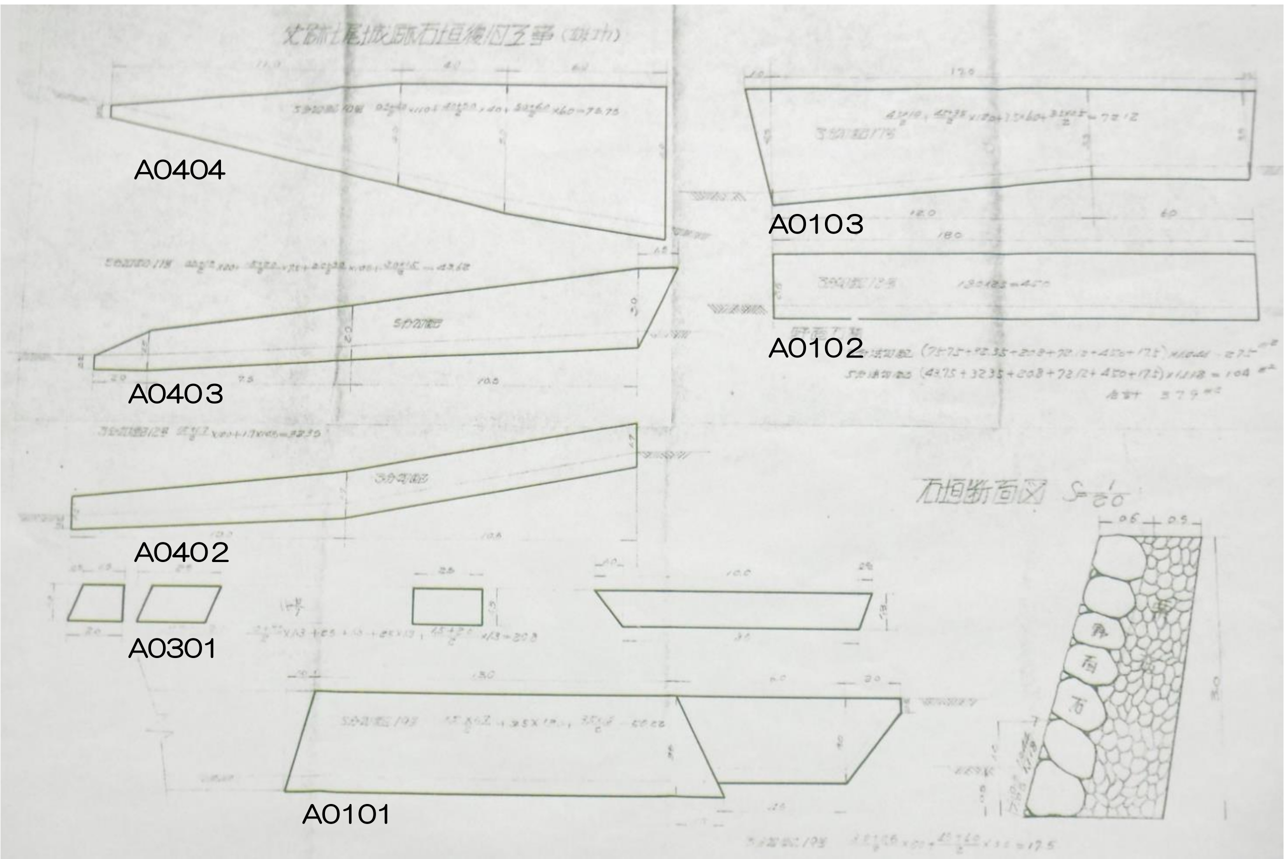



図２　昭和 33 年度復旧竣工図

【昭和３４年度】　本丸北側登り口西側のＡ0104 と登り口東側の A0103－3、遊佐屋敷北側の A0311 で実施している（図 1）。復旧方針と仕様は、前年度同様に実施している。A0104 は3分勾配、延長 24.5m、高さ 0.4m～2.0m（根石含む）で、全面復旧している。A0103－3 は登り口階段東側の石垣で、底辺 6.0m、高さ 3.5mに復旧されているが、昭和 42 年の A0103 の再復旧に伴いその形状は失われている。A0311 は延長 3.25m、高さ 1.5m に復旧しているが、現地ではその痕跡を探ることができなかった。

写真 13　A0104(昭和 34 年復旧中)

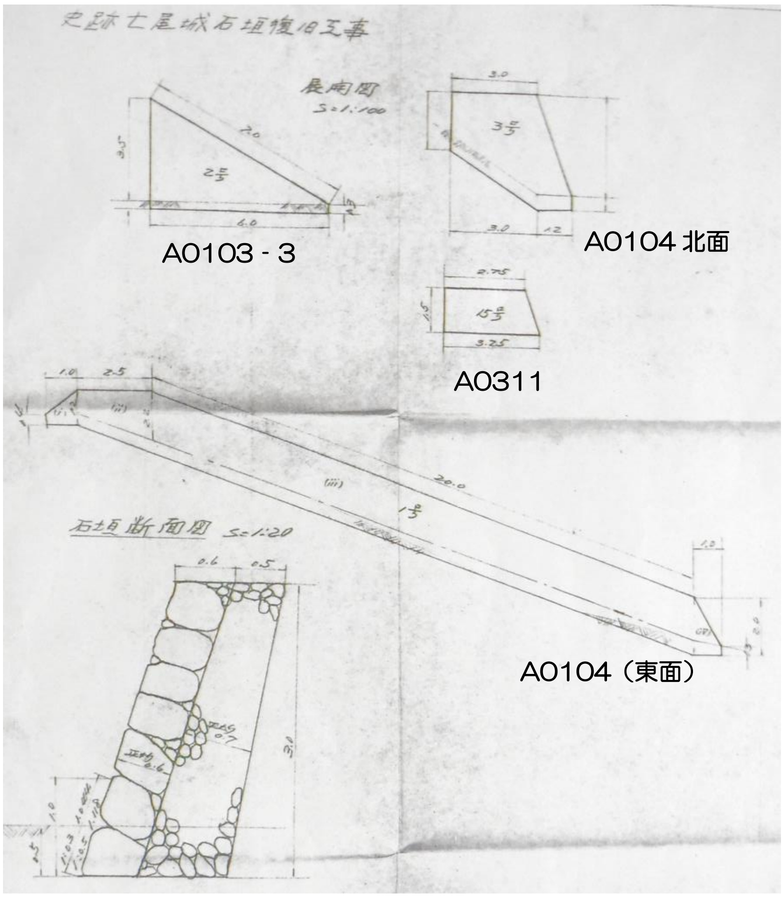



図３　昭和 34 年度復旧竣工図

**b.昭和４１年(1966)度～４２年(1967)度**

文化庁の国庫補助事業として、昭和 38 年 6 月発生の豪雨により再崩落した本丸北側石垣 3 基（A0101～103）の復旧工事を２ケ年で実施している（図４）。

なお、本事業については、昭和４１年９月の文化庁の現地確認と指導（着工前）により、以下のとおりに当初計画を変更している。

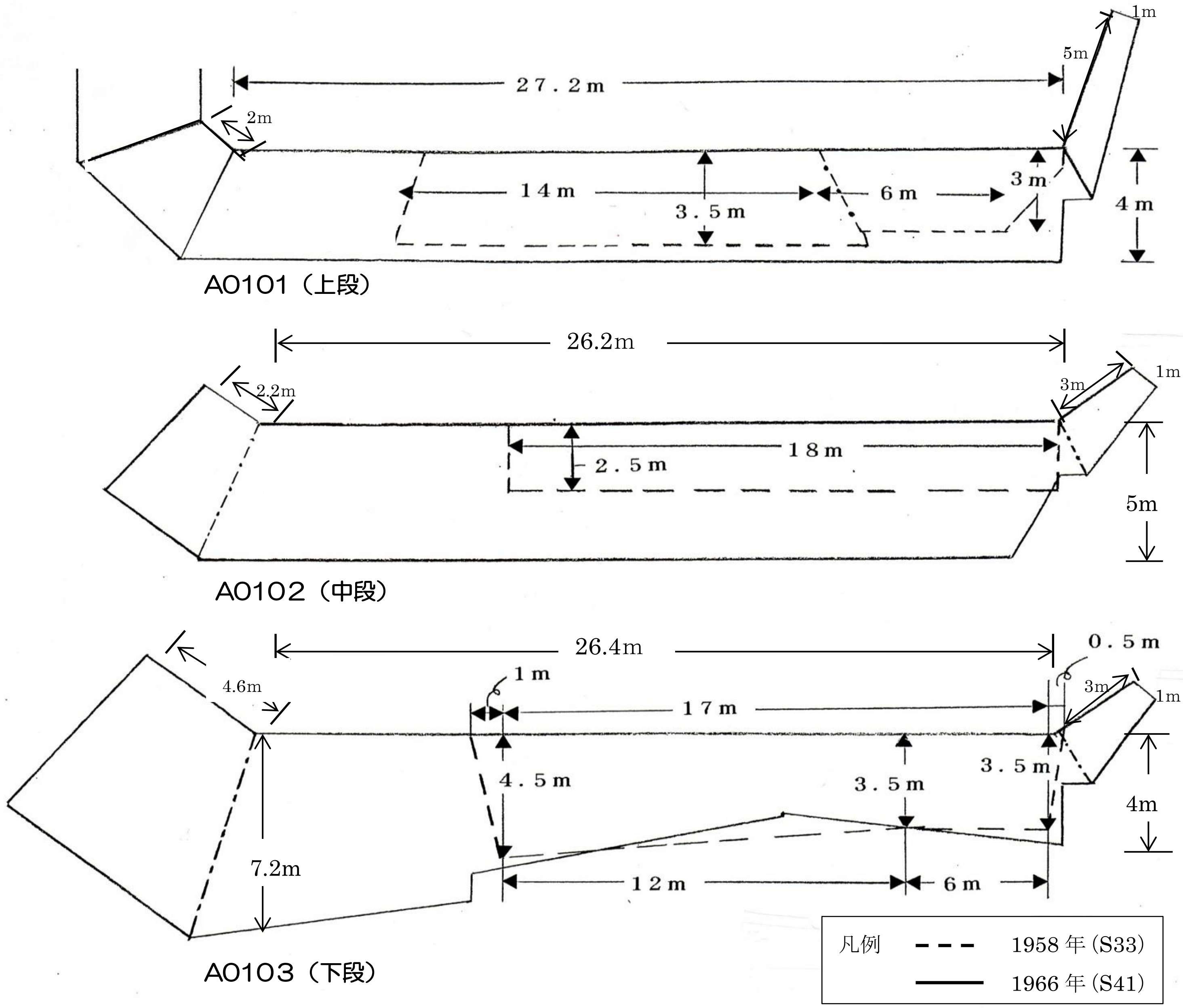
①当初は A0101（上段）と A0102（中段）の２基を昭和 41 年度の１ケ年で復旧する計画としていたが、A0103（最下段）の崩落も確認されたことから３基全て復旧することとし、工期も２ケ年とした。

②当初はコンクリートを使用しない昭和 33 年と同様の現状復旧としていたが、地盤が軟弱だったため基礎はコンクリート打ちとし、その上に石を積み上げることとした。さらに、間詰めはモルタル詰めとした。

③使用石材は A0103 が在石 100%、A0101・102 が在石 50%、新石 50%とした。

【昭和 41 年度】　A0101～103 の３段全面（全体）を対象とした復旧計画を作成し、A0103 の１段を復旧している（図４）。

## 展　開　図




## 横　断　面　比　較　図

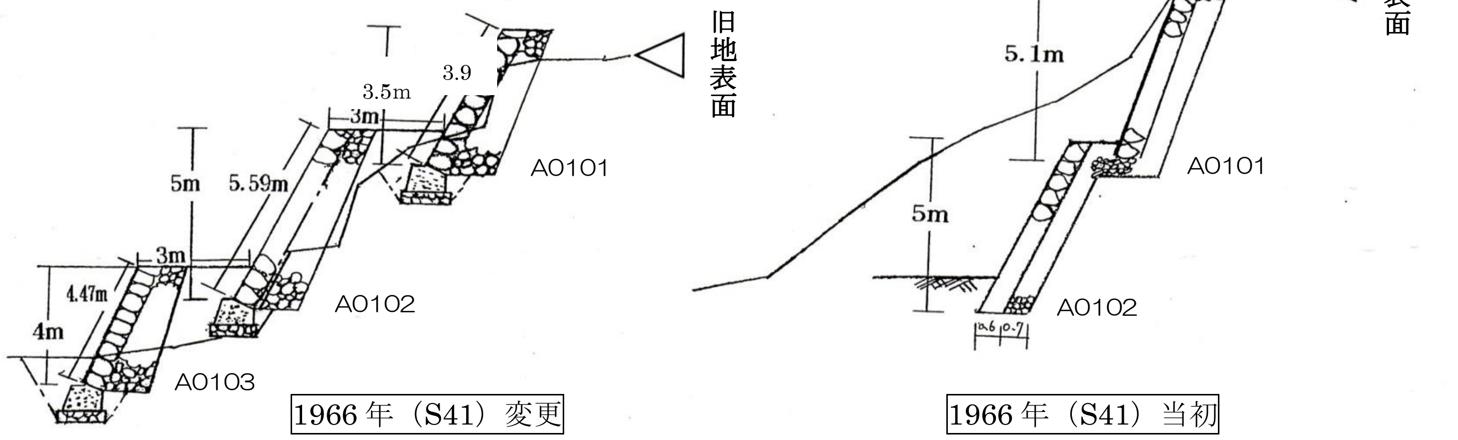





図４　本丸北側石垣復旧比較図

写真 14　A0101～103 崩落状況(S38)

写真 15　A0103 復旧状況(S41)

写真 16　A0103 全景（S41 復旧後）

は地下基礎部 0.5mを含む）に復旧している。

【昭和 42 年度】　A0103上段の A0102と A0101 の２段全面（全体）について、A0103 と同様の仕様で復旧している。さらには、A0101 南側では湧水が確認されたことから、新たに本丸平坦面（本丸広場）北側に暗渠を設置した。

A0102 は、石積 172.6 ㎡、延長 31.4m、高さ５m、A0101 は、石積 131.6 ㎡、延長 34.2 m、高さ４mに復旧している（写真 17～19）。

写真 17　A0101 復旧状況(S42)

写真 18　A0101・102 復旧後

写真 19　A0102・101 全景（S42 復旧後）

本丸平坦面北側の暗渠は、A0101 天端から南側数m地点に、上幅 1.6m、底幅 1.0m、深さ 1.0m、東西延長 28m掘削し、栗石を 0.5m敷き詰め、口径 0.2m、長さ 2.0mの排水管（ヒューム管）１４本繋ぎ合わせている（写真 20～22）。この排水管については、本丸の北東隅斜面に露出し、現地確認することが出来る。

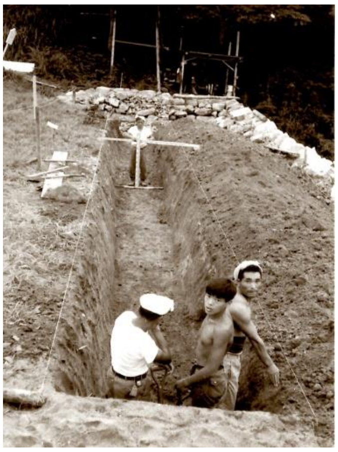


写真 20　暗渠掘削

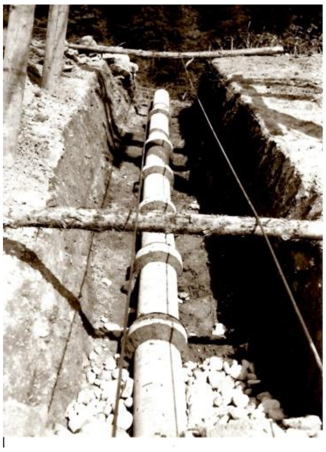


写真 21　排水管設置

写真 22　竣工

**ｃ.平成元年(1989)度**

桜馬場北側石垣 A0404 については、昭和３３年に西側を復旧しているが、その東側については経年劣化が進み、徐々に石積が迫り出してきていた。

こうした状況のもと、昭和 60 年 10 月 18 日に発生した輪島沖地震（七尾震度３）によって中央部の石積が大きく迫り出すとともに、上辺部が陥没した。迫り出し陥没箇所は、昭和 33 年修理箇所の西端部から幅 18m、高さ 5mに迫り出し、幅 8m、奥行き 4mが陥没した。

平成元年３月には、迫り出し箇所が幅 13m、高さ 5mにわたり大規模に崩落したことから、同年に国庫補助事業として復旧している（写真 23～25）。

復旧範囲は、崩落した１３mの東側についても遺存状態が悪かったことから対象範囲として、延長 26.5m、165.4 ㎡を復旧した。本事業については、上段石垣 A0403 の崩落防止措置として、裏込内に鉄筋コンクリート杭を 17 本打ち込み、背面に鉄筋コンクリート柵板を７枚重ねて被害

拡大防止措置をこうじた上で、石積復旧した（図５）。

石積は、基底部を栗石基礎として、その上面に３分の急勾配で、高さ 4.09m～5.91 に積み上げている。なお、東端部には、隅石と見られる巨石を重ね積みしている痕跡がそのまま復旧されている。また、昭和 33 年の復旧箇所との境界箇所が徐々に迫り出していることから、経過観察し、対応を検討する必要がある。

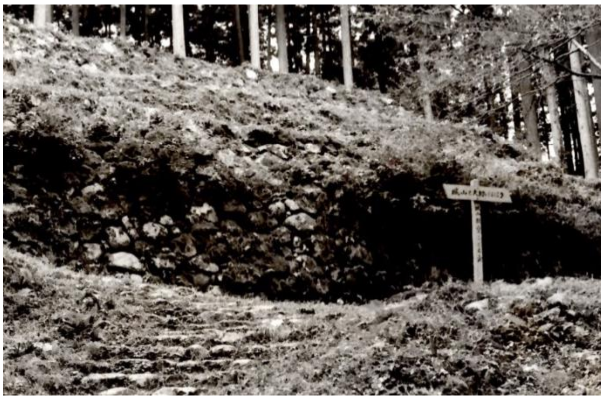


写真 23　A0404(S53、崩落前)

写真 24　A0404(H 元、崩落後)

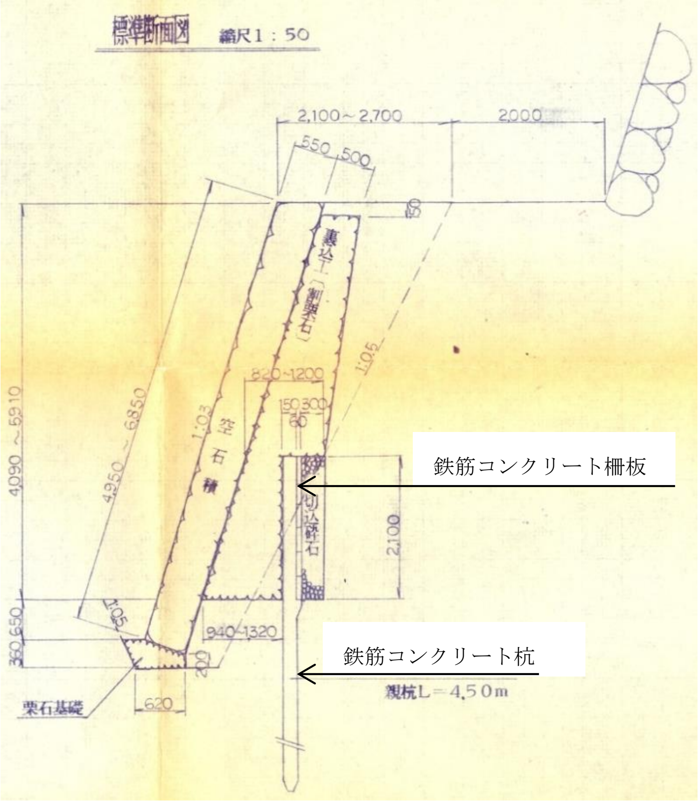



図５　A0404（復旧断面図、H 元）

写真 25　A0404全景（H 元　復旧後）

**d．平成 19 年(2007)度～20 年(2008)度**

平成 19 年３月 25 日に発生した能登半島地震（七尾震度５強）は、能登半島全域に甚大な被害を及ぼした。七尾城跡においては、昭和 34 年度に全面復旧した本丸北側登口石垣の北面 A0104‐2 の西側（幅約 1.5m、高さ約 2m）と、桜馬場北側最下段石垣 A0405 の中央部（幅約 7.2m、高さ約 3.8m）の２基が崩落し、平成 19 年度～20 年度までの２ケ年の国庫補助事業として復旧している。

【平成 19 年度】　本年度は、復旧に先立つ発掘調査及び現況測量を実施し、復旧計画を作成した。A0104‐2 は、天端部１カ所、基底部４カ所に小トレンチを設置して発掘調査したが、石垣の実態解明に至るまでの成果を得ることが出来なかった。その一方で、本石垣北東隅から遊歩道を挟んだ北側には、隅角状の石垣の所在を新たに確認した（写真 26）が、本石垣との関連性などの実態は不明である。

写真 26　A0104‐2 北側調査地(T1)

A0405 は、天端部６カ所、基底部３箇所にトレンチを設置して実態解明に向けた発掘調査を実施している。天端部では表土直下から現段階の石垣の裏込石敷を確認した。裏込は検出面で 30 ㎝前後の栗石を幅 110 ㎝～130 ㎝にわたり確認され、地表下約 40 ㎝の整地土面に所在する戦国期の遺構を削平している。この裏込が伴う石垣は前記したとおり、昭和 32 年に復旧された痕跡の可能性が高い。基底部は、東側から西側に地形が下がる状況から、根石は東側が地山直上に据え、西側では整地土上に据えていることが確認された（写真 27、28）。

写真 27　A0405 裏込と遺構

写真 28　A0405 基底部

【平成 20 年度】　本年度は、昨年度からの発掘調査を継続しながら、石垣の解体、復旧に７月から着手し、９月に完了している。復旧は、いずれの石垣も５分勾配を基本として、出来る限り既存の石材を使用し、不足分は新補石材とした。A0104‐2 は、延長 3.6m、面積 6.4 ㎡（全体面積 11 ㎡)、A0405 は、延長 3.6m、面積 6.4 ㎡（全体面積 82 ㎡）を復旧している（写真 29～31、図６・7)。なお、A0104‐2 については、西側が斜面であるため現状のままでは安定した石積が出来ず再崩落が危惧されたことから、基底部に花崗岩質（新補石材）の割栗石を東西 1.1m、南北 2.2m、深さ 0.5mにわたり根固めして石積（復旧）した。

写真 29
A0405
（復旧後）

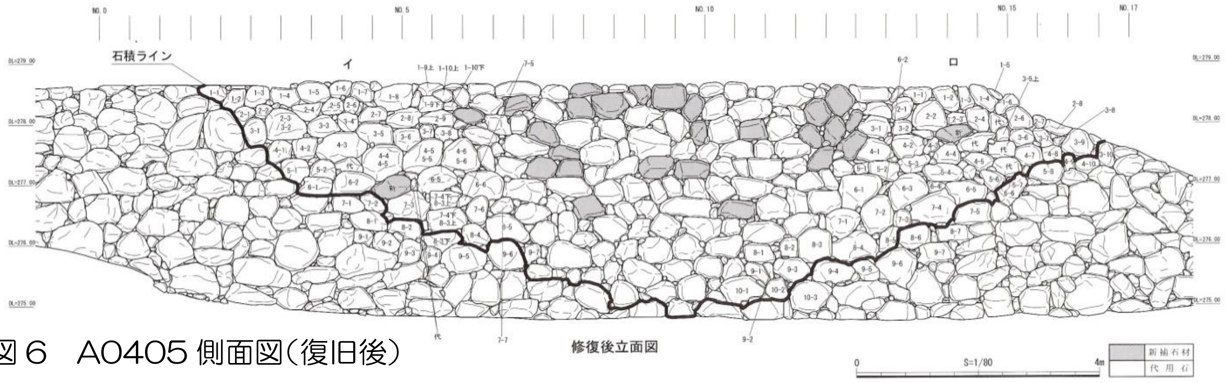



図６　A0405 側面図(復旧後)

写真 30　A0104 - 2（復旧後,北面）

写真 31　A0104 - 2（復旧後,西面）

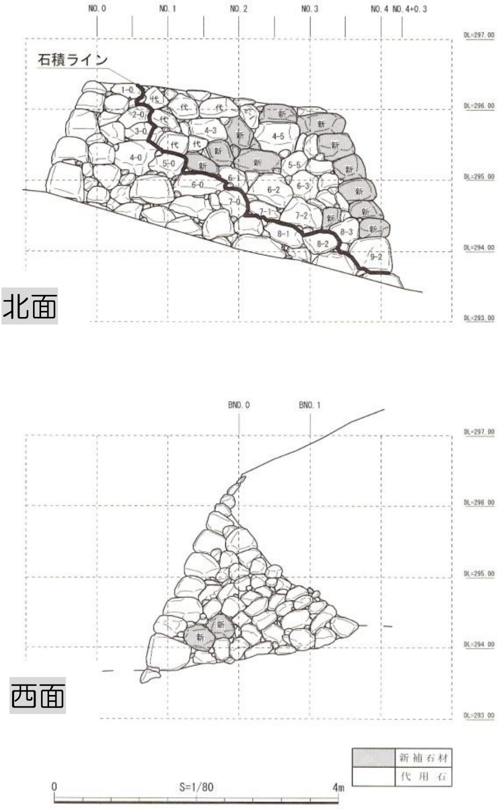



図７　A0104 - 2 側面図（復旧後）

## 4．復旧履歴から見た現存石垣の評価

（１）本丸北側石垣（A0101～103）

これら３基の石垣は、昭和 41 年度～42 年度の再復旧によって、位置を北側に迫り出して石積みしている。

図４横断面比較図から、現状の A0102 は、上端の控えを北側に 1.7m（変更 3m－当初 1.3m）迫り出している。同様に、下段の A0103 についても 1.7m 北側に迫り出しているとすれば、A0102 と合わせれば、3.4m北側に迫り出していることとなる。A0102 と A0103 の東側端部が南側に湾曲しながら上段石垣に取り付く状況は、迫り出したことに起因するものと推察される。

写真 32　本丸北側石垣（現状）

これら３基の石垣は、全体的に当初の位置や石積みが失われているが、A0102 と A0103 の東半部（S33 末復旧箇所）については、裏込めより内側に復旧前の A0102 と A0103 の痕跡が残存している可能性も残る。

（２）桜馬場北側石垣（A0402～405）

本石垣群も本丸北側石垣群と同様に、昭和 33 年以降度重ねて復旧してきていることが確認できた。こうした復旧状況は、築石の軸線や勾配、材質、天端や底部の通りなどを視点にした現地観察と復旧図面との照合状況が、A0402 と A0403 に明確に現れていることが再確認出来た（写真 12、図 2）。

また、A0405 については、記録は残っていないが、築石の状況や発掘調査成果から昭和 32 年に東西両端と上部 1/3 が復旧されている可能性が高いことが確認出来た。具体的には、A0405 の裏込断面が表土直下から掘り込まれていることや、裏込めにやや大きめの礫を用いる昭和 33 年、34 年の状況と一致するこことが確認出来た（写真１、２、10、13）。

写真 33　A0405(裏込め断面)

（３）その他の石垣

七尾城跡中心部の石垣については、復旧記録が無い石垣も多く確認出来る。桜馬場北西斜面のA0435 や二の丸東側においても積み直し痕が確認出来る（写真 34）。今後、こうした積み直しの状況や特徴を観察、分類しながら、その変遷を明らかにする必要がある。

写真 34　A0435

## ５．今後の整備計画の策定及び実施に向けて（まとめにかえて）

石垣の整備計画の策定にあたっては、それぞれの石垣の立地や環境を勘案した計画を策定することが前提条件として留意すべきであることを、これまでの復旧履歴から読み取ることが出来た。

本丸北側石垣 A0101～103 の現在の外観は、新補材として割石を多く用い、間詰めをモルタルとする近代技法とした。こうした近代技法を用いたことにより、湧水が激しく地盤が軟弱な環境にも関わらず昭和 42 年の復旧以来、半世紀にわたり現状維持されている。その一方で、往時の野面積みの遺構は、外観・基礎・内部とも大きく失われ本質的価値に重大な影響が生じたことは否めない。

近年は、災害で城郭石垣が崩落する事例が全国各地多発しており、「歴史の証拠」の保存と「安定的な構造体」の維持の両立を図るべき、各地で学際的な議論と経験が蓄積され、文化庁が主催する「全国城跡等石垣整備調査研究会」等の場を通じた情報共有も進んできている。七尾城跡においても、そうした文化財としての石垣の保存整備を巡る全国的な動向に目を向けながら、本質的価値の保存管理の在り方を検討していく必要がある。

平成元年度に復旧した桜馬場北側のＡ0404 については、A0101～103 の経過を踏まえ、裏込め内部に崩落防止のコンクリート杭と擁壁を設置し、その前面に野面積みの石垣を復旧しているが、昭和 33 年復旧箇所との擦りつけの境界部分がはらんできているようにも見える。平成 20 年度に復旧した桜馬場北側最下岸 A0405 についても、擦りつけ部がはらんできているように見えることから、今後、進行性を確認する経過観察を実施する必要があることも再確認した。

七尾城跡の石垣については、これまで概観してきたとおり、度重なる復旧の歴史があり、その経過を現地確認することも出来た。

令和２年度に策定する「史跡七尾城跡整備基本計画」には、現代の史跡整備としてふさわしい石垣整備の視点と方向性を慎重に検討しながら反映していきたい。

【参考文献】


松浦五郎・桜井憲弘「七尾城跡調査について」『能登の文化財第 10 輯』1974 能登文化財保護連絡協議会

善端直「城郭の遺構と遺物」『新修七尾市史７　七尾城編』2006 七尾市史編さん委員会

『史跡七尾城跡石垣保存修理報告書 1990 七尾市教育委員会

『史跡七尾城跡石垣修復事業報告書－能登半島地震に係る災害復旧工事－』2009 七尾市教育委員会

『史跡七尾城跡豪雨災害復旧事業報告書』2009 七尾市教育委員会

『史跡七尾城跡石垣調査報告書』2015 七尾市教育委員会

『七尾城跡保存管理計画書』1979 七尾市教育委員会

『史跡七尾城跡保存管理計画書』2002 七尾市教育委員会

『史跡七尾城跡保存活用計画書』2018 尾市教育委員会

## （３）令和元年度七尾城大手道（旧道）発掘調査の概要

１．調査箇所　　七尾市古城町地内
２．調査面積　　約６０㎡（３箇所、Ｔ１～Ｔ３合計）
３．調査目的　　大手道（旧道）の所在及び構造の解明
４．調査期間　　令和元年 11 月９日から 12 月２８日（現地説明会：12 月 21 日）
５．発掘担当　　七尾市教育委員会スポーツ・文化課
６．調査概要

**【経緯】**

七尾城は、今から５００年程前の戦国時代に当時能登国を治めていた畠山氏が築いた能登国の政治・経済・文化の拠点で、山上のお城と山麓の城下町が一体となったもので、現在は町名や地割、石垣などにその面影が偲ばれます。

この度の発掘調査は、お城と城下町をつないだ主要道路と考えらている大手道、すなわち、現在の旧道の所在及び構造の解明を目的として、３箇所（図１のＴ１～Ｔ３）で実施しました。

**【主な成果】**

Ｔ１では、溝、石敷遺構、道？を検出。Ｔ２では、素掘り井戸。Ｔ３では、円礫を確認。３箇所で旧道の構造は確認できたが、大手道と確定できる遺構は未検出。

石川県が実施した能越自動車建設に伴う発掘調査(Ｈ１９)で両側に石組の側溝を持つ路面幅約３mの「大手道」が検出されています。市教委の調査では、図１－Ａ、Ｂ、Ｅ、Ｆ からは、大手道の石組側溝が一部検出されています。（現状の路面は近代以降か）また、今回の調査では地形を大きく造成・整地した痕跡が発見されています。（地山面は深い所で現地表より約 1.5m 下）これまでの城下の発掘調査からも２段階以上の遺構面を確認しており、調査成果を丁寧に精査して主要道路及び七尾城下の構造と変遷を解明していく必要があります。

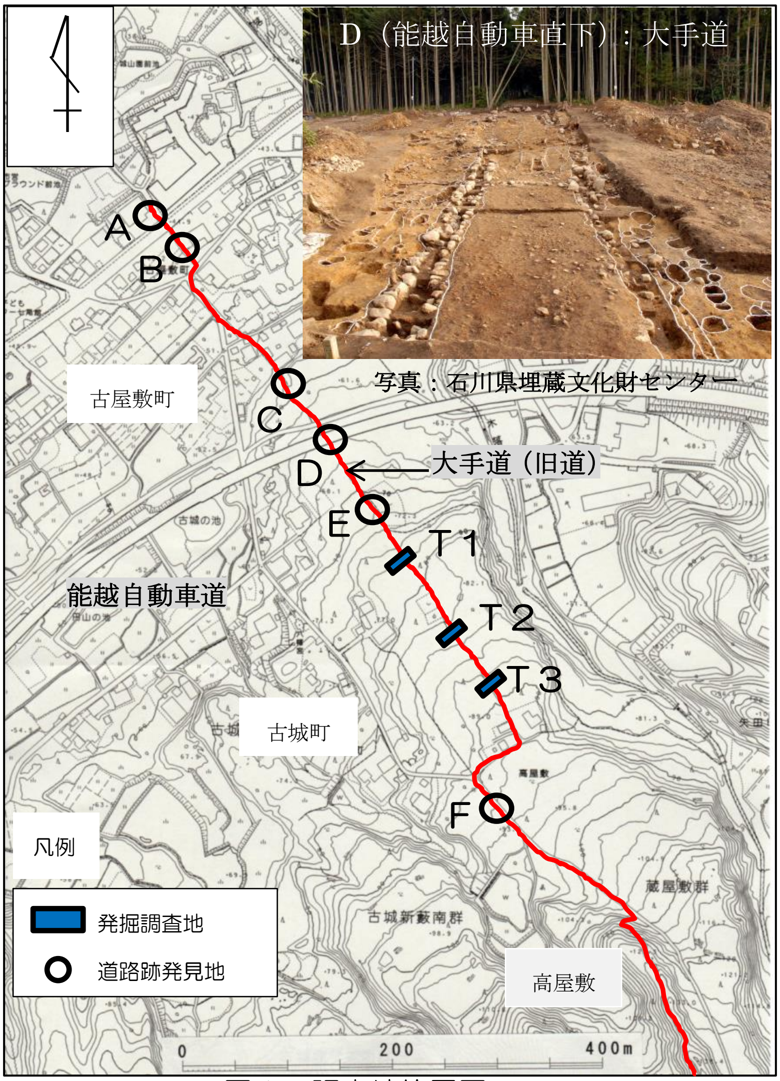
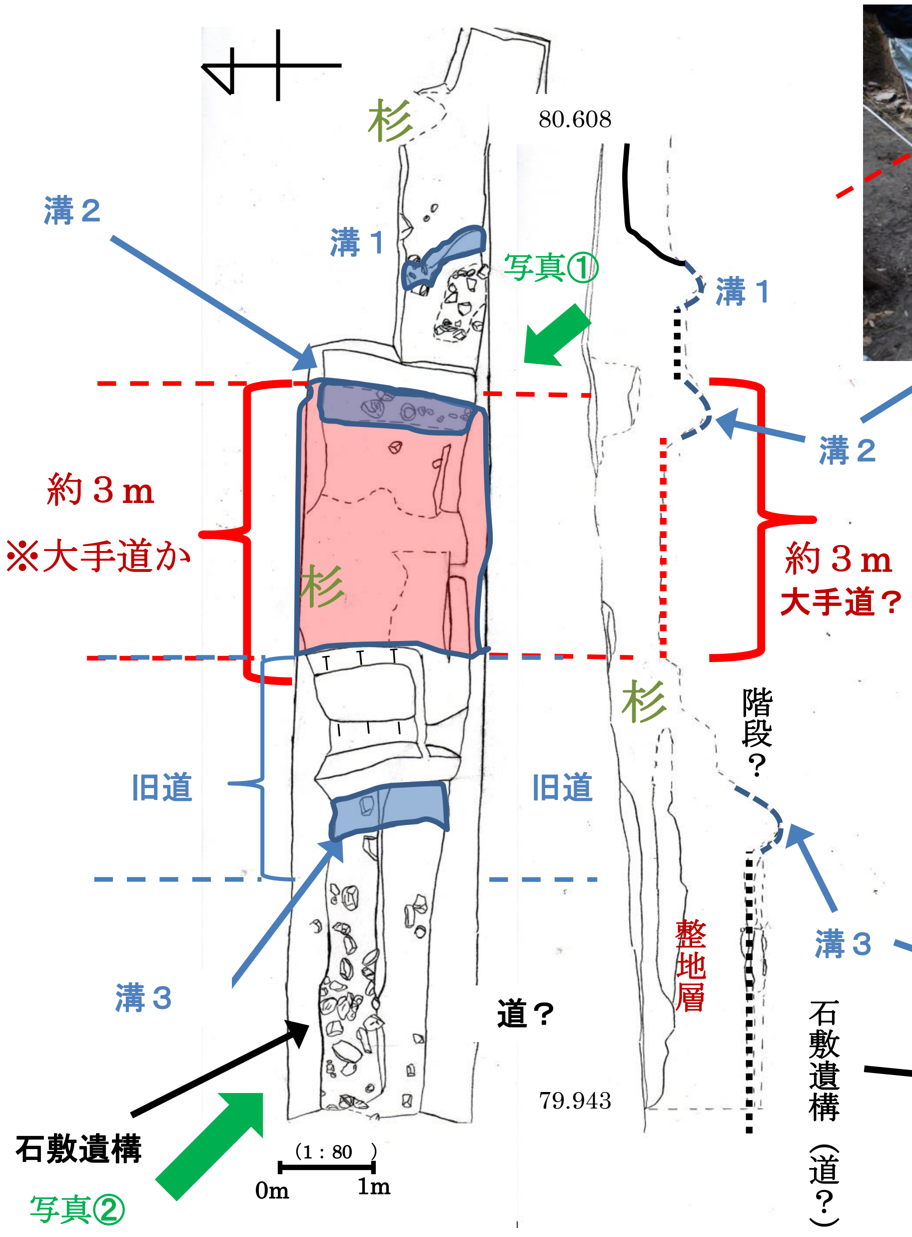


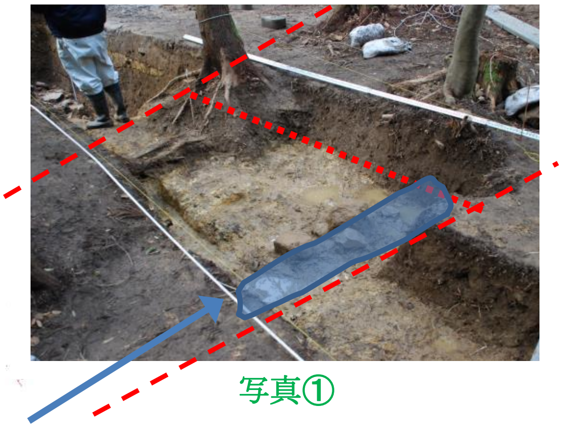

図１　調査地位置図

# トレンチ１

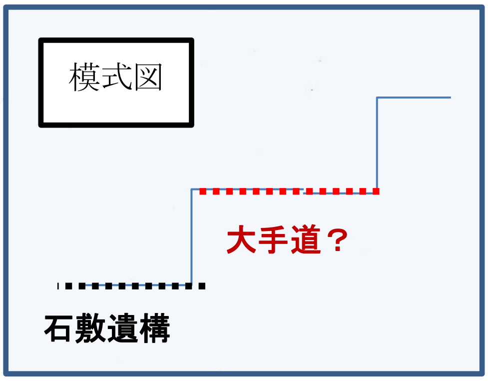



平面模式図

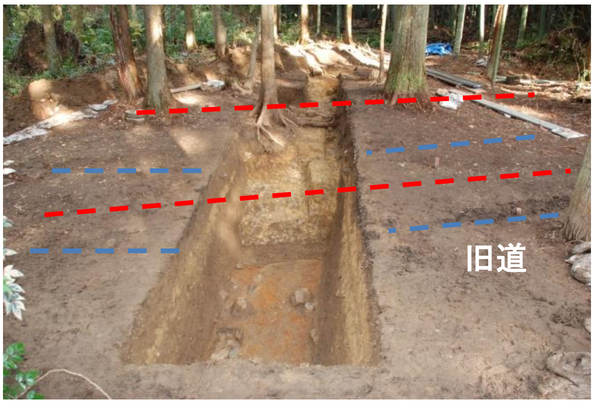
北側断面模式図



写真①



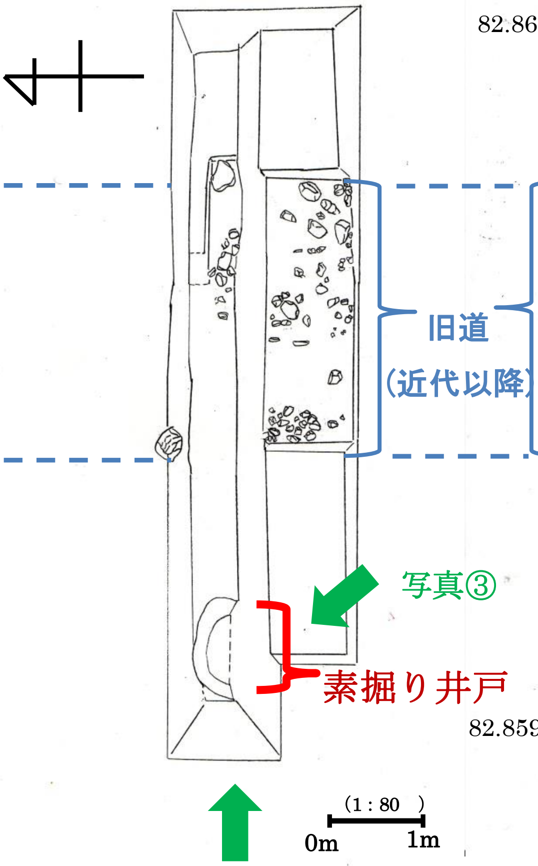
写真②



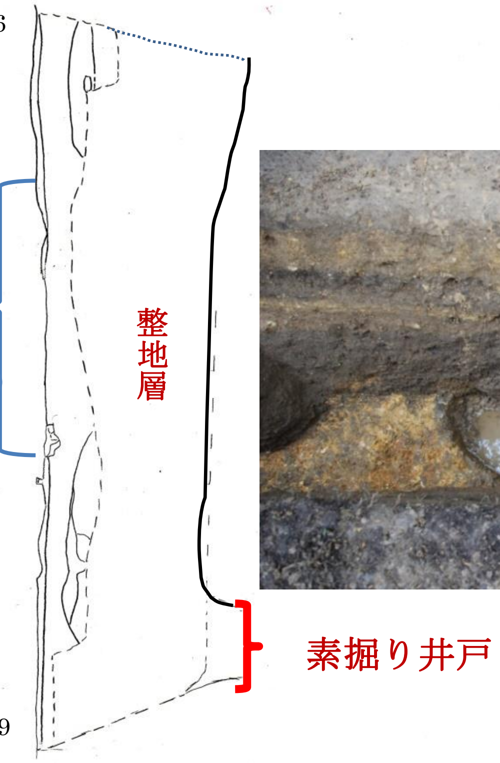
大手道？

# トレンチ２

トレンチ２　平面模式図




トレンチ２　北側断面模式図



写真③

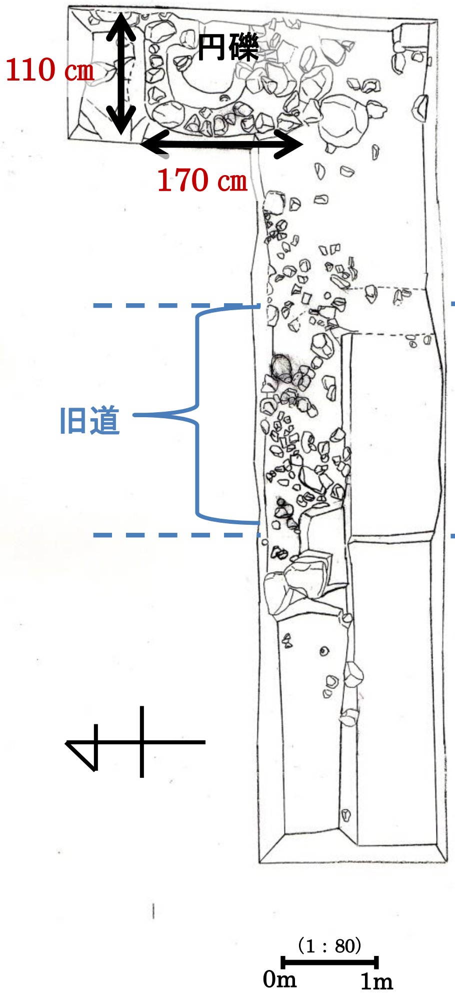
- 旧道直下に石敷あり。石敷下からガラス、陶磁器片出土。（近代以降）
- 整地層は、黄褐色の地山ベースと炭・土器を含む黒褐色土の２種類。
- 黒褐色土の方は、土師皿の細片を多く含む。新しいものはない。16 世紀代か。
- 整地層は水平に堆積。短期間で埋めた印象。
- 地表下約 2m で遺構面(地山)。井戸、ピット検出。
- 層位は T1、T３と相似。

井戸付近から出土した天目茶碗

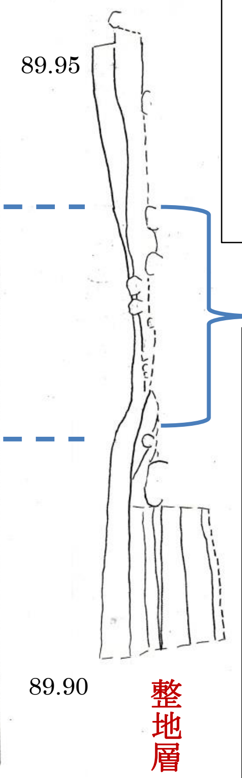
井戸内から出土した灯明皿

# トレンチ３

トレンチ３　模式図




トレンチ３　北側断面図




・旧道石敷きの残りがよい。路肩に大型の石あり。
・東側の円礫は浮いている。近代以降か。
・地山面は地表下 1.2m で検出。東に傾斜していく。
・旧道両脇に民家があったとの話もあり。
・層位は、トレンチ１・２と共通する。

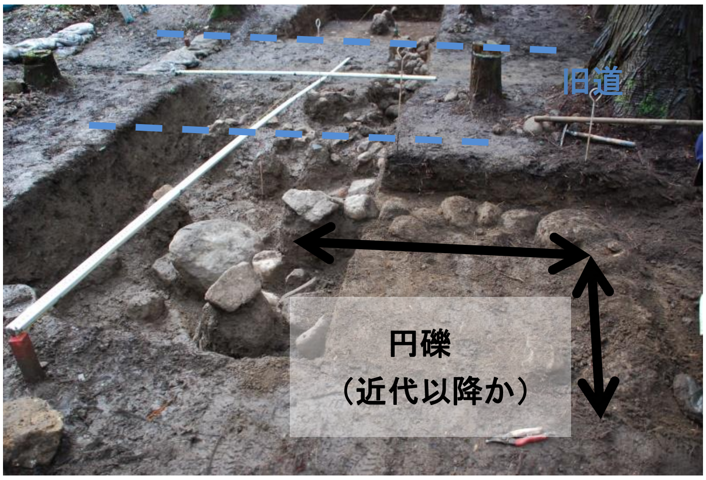
まとめ

・図１　D(門の高)～E(立石の地蔵辺)までは、旧道直下に石組側溝を有する大手道は確実に存在する。

・戦国期に大きな造成をしている。地山面の遺構時期はいつ頃か。惣構え内を全体的に整地した時期はいつ頃か。畠山？上杉？前田？廃城時？明治？

●今後の課題・・・大手道はどこなのか？
①調査区の大手道が削平されている。明治？
②調査区は大手道から外れている。別の主軸？
③場所によって構造が異なるのか。考えにくい。

今後、地形調査、聞き取り、土地利用の文献資料調査を更に進め、時期を改めて城下の再調査を実施。



## （４）令和元年度史跡七尾城跡調度丸北側斜面災害復旧工事に伴い発見した石垣の緊急調査概要

### １．概　要

本事業は、平成３０年９月に発生した集中豪雨によって崩落した調度丸北側斜面を、災害前の状態に復旧したものである。実施方法については、崩落した斜面の現地測量及び工事設計を行い、法面勾配が１：1.0 の急斜面はテラセル（高密度ポリエチレン樹脂）擁壁工法とし、勾配が緩やかな箇所は法面保護工法により復旧した。テラセル擁壁工法については、工事過程で発見された石垣を保護するため、北側に約８０㎝平行移動してテラセルを３５段積上げて施工した。法面保護工法については、崩落部分を土砂で埋め、上面を植生シートで養生した。（関係図、関係写真　１～６）

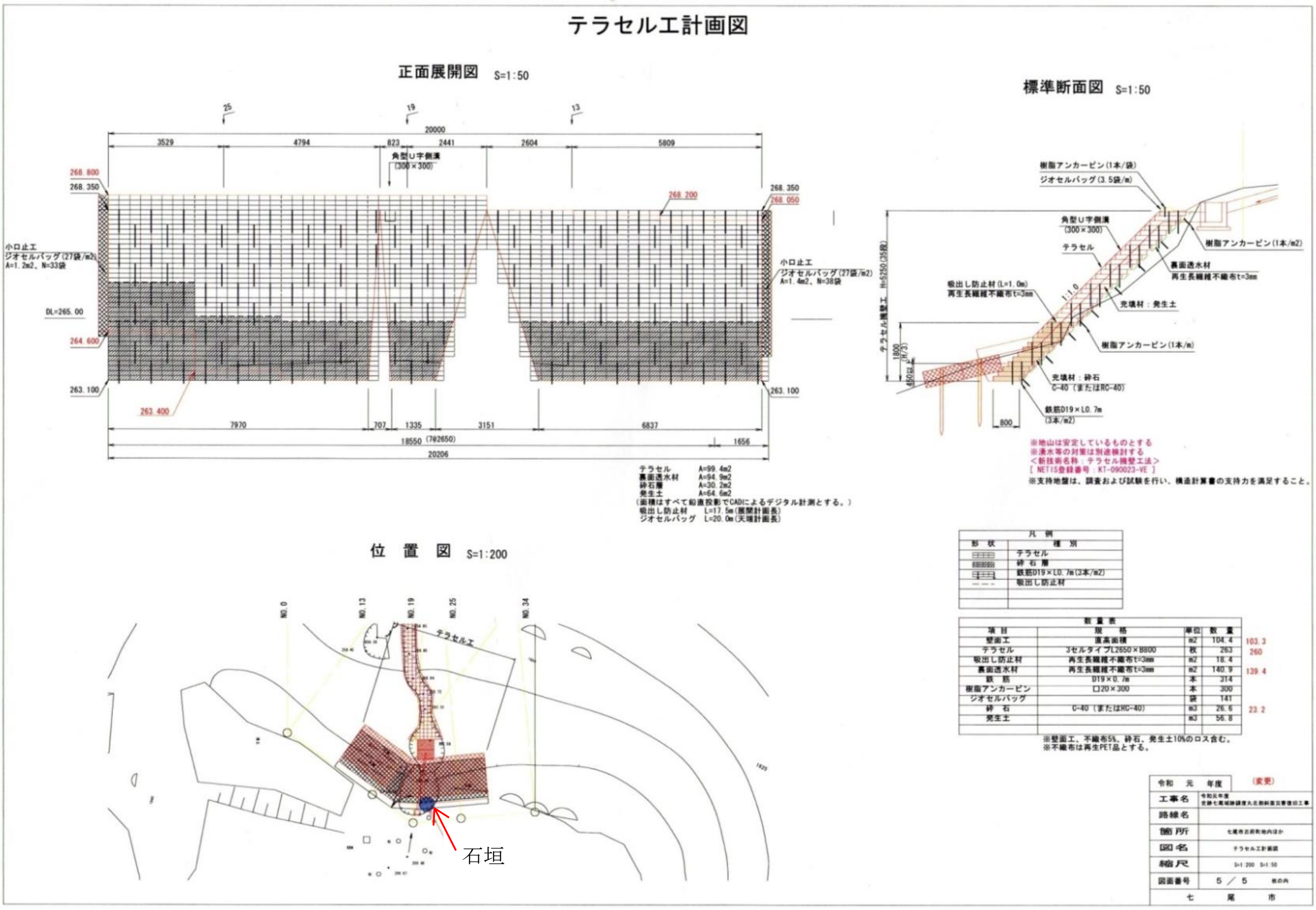
### ２．内　容

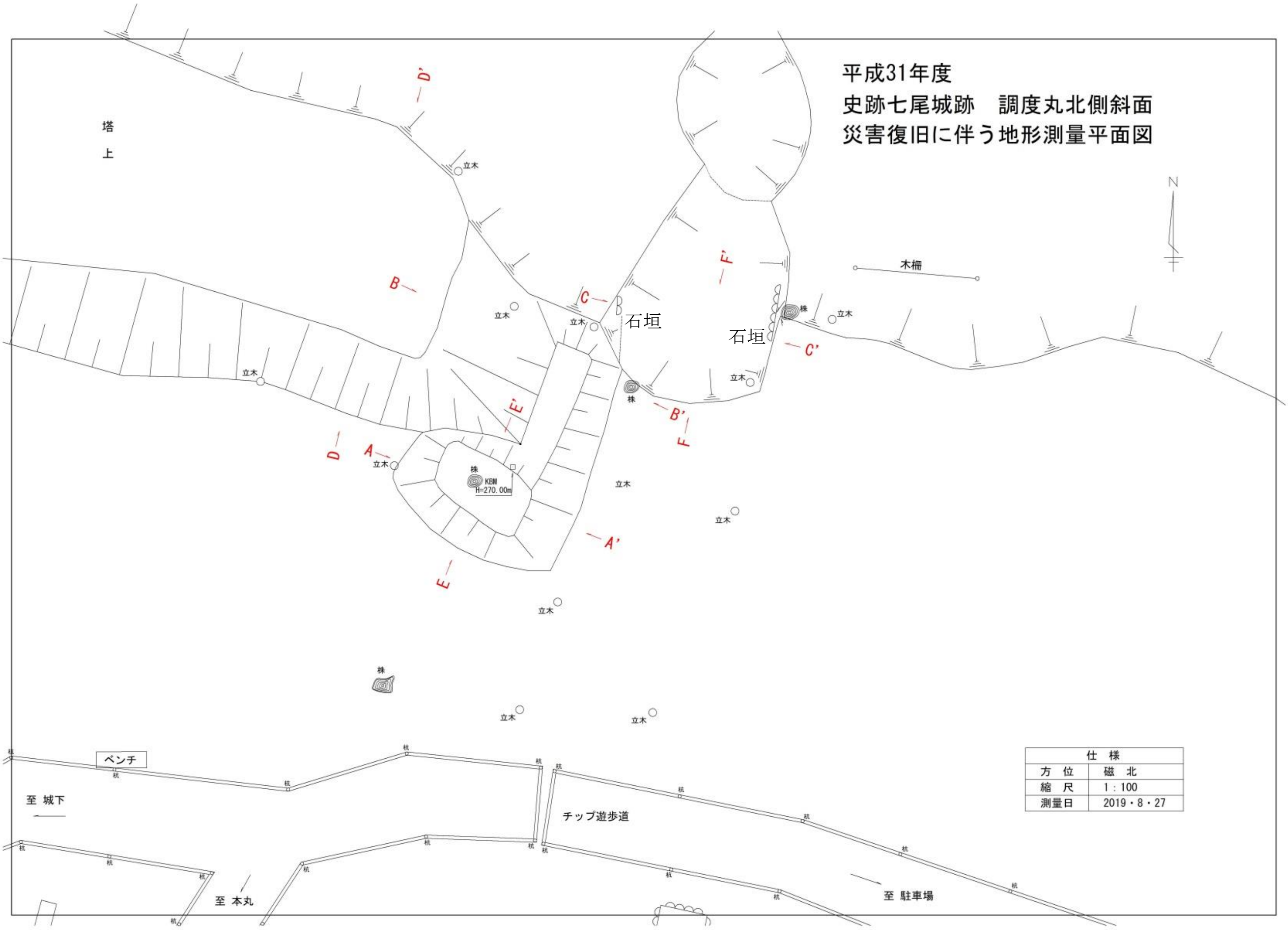
■事業費　　８，２６２，４００円（国庫補助事業　「歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業」）

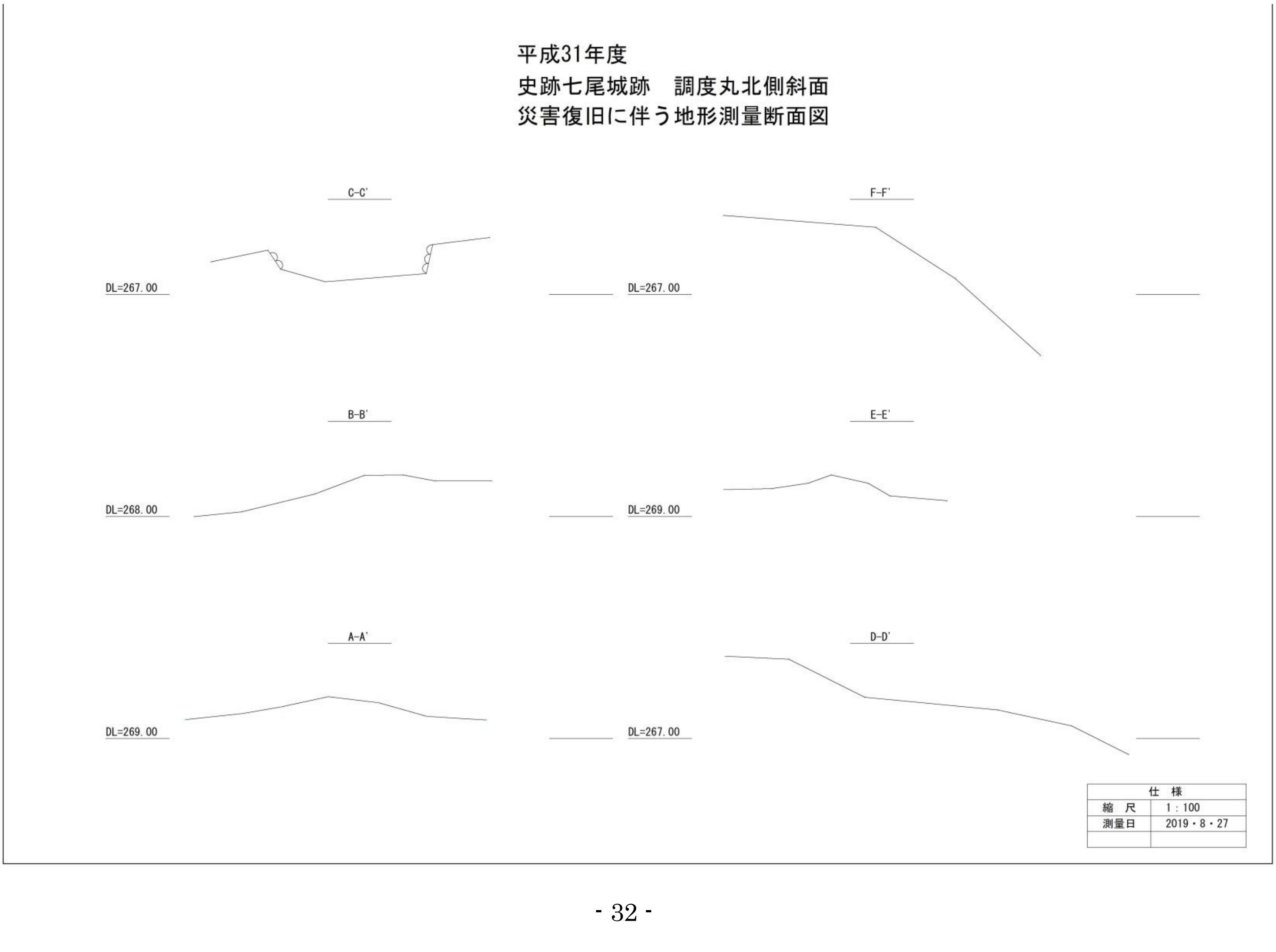
内訳：歳入　国庫補助金　５，７８３，０００円（７０％）
　　　　　　地方債　　　２，２００，０００円（２６％）
　　　　　　市一般財源　　　２７９，４００円（　４％）
　　　歳出　測量委託料　　　７７８，０００円
　　　　　　工事請負費　７，４８４，４００円

■期　間　　平成３１年４月１日～令和２年１月１４日
　　　　　　（うち現地工事は平成元年８月１日～９月３０日）

■関係図




平成31年度
史跡七尾城跡　調度丸北側斜面
災害復旧に伴う地形測量平面図
塔
上
N
木柵
石垣
石垣
株
立木
KBM
H=270.00m
A　A'
B　B'
C　C'
D　D'
E　E'
F　F'
ベンチ
杭
至 城下
至 本丸
チップ遊歩道
至 駐車場
仕　様
方　位　磁　北
縮　尺　1：100
測量日　2019・8・27


平成31年度
史跡七尾城跡　調度丸北側斜面
災害復旧に伴う地形測量断面図
C-C'
DL=267.00
F-F'
DL=267.00
B-B'
DL=268.00
E-E'
DL=269.00
A-A'
DL=269.00
D-D'
DL=267.00
仕　様
縮　尺　1：100
測量日　2019・8・27

■関係写真

１．全景写真（北から、着工前）

２．全景写真（北から、完了後）

３．部分写真（北から、着工前）

４．部分写真（北から、完了後）

５．部分写真（西から、完了後）

６．部分写真（東から、完了後）

# 付　編

（１）七尾城跡来城者アンケート結果

（２）七尾城跡に関する新聞報道

（３）広報ななお「七尾城跡関連記事」の連載について

## （１）令和元年度七尾城跡来訪者アンケート結果

### ①アンケートの概要

□目　的：七尾城跡の保存・活用・整備のため

□実施者：七尾市教育委員会（スポーツ・文化課）

□期　間：令和元年 5 月 15 日～令和元年 10 月 26 日までの土・日・祝日の延べ 34 日間。

※6 月 14 日に県道 177 号城山線が通行止め解除

□方　法：七尾市観光ボランティアガイド「はろうななお」の協力のもと、七尾城跡本丸駐車場および七尾城史資料館で来訪者に実施（任意）。

□内　容：別紙アンケート用紙のとおり（38 頁）

□結　果：

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 - 1 | 性　　別 | （回答 166 人） | 男性 112 人、女性 54 人 |
| 1 - 2 | 年　　代 | （回答 165 人） | 30 代まで 33 人、40 代以上で 132 人 |
| 1 - 3 | 住　　所 | （回答 160 人） | 関東 53 人、北陸東海近畿 68 人、市内 2 人。 |
| 2 | 交　　通 | （回答 163 人） | 自家用車 130 人 |
| 3 | 訪　　問 | （回答 165 人） | はじめて 141 人 |
| 4 | 目　　的 | （回答 164 人） | 観光行楽レジャー149 人 |
| 5 | 印　　象 | （回答 270 人） | 石垣・自然 148 人、ガイド 65 人 |
| 6 | 史　　跡 | （回答 165 人） | 知っていた 105 人、知らなかった 60 人 |
| 7 | 整　　備 | （回答 162 人） | すべき 121 人、すべきでない 41 人 |
| 8 | 整備内容 | （回答 151 人） | 遺構・建物復元 105 人、樹木伐採 36 人 |
| 9 | 整備しない | （回答　86 人） | 現状維持 40 人 |
| 10 | 感　　想 | | P41～P43 頁参照 |

※5 印象については複数回答可

□その他

●回答者数は GW 中、県道 177 号城山線が通行止めであったため減少してる。

●基本的にはアンケートの傾向は前年度と同様であった。

・アンケート回答者の傾向は、40 才代以上の男性が前年度より増加した。

・住所は、関東が多く、ついで近畿・東海・北陸が多い。

・観光などが主な目的で、はじめて訪問した人が多数を占める。

・印象は、石垣が最も多かったが、自然・ガイドも好評であった。

・整備「すべき」との回答で、整備内容については遺構復元の意見が最も多かった。

・整備「すべきでない」との回答で、しない理由は現状維持が多数を占めていた。

・PR 活動の充実を求める意見も多く上がっていた。

②アンケート原紙

# アンケート調査ご協力のお願い

七尾市教育委員会

本日は、ご来訪ありがとうございます。

皆様のご意見・ご感想を、今後の七尾城跡(あと)整備・活用のために参考とさせていただきます。

（なお、このアンケートは他の目的には利用いたしません。）

1　おしえてください。

・性　別　① 男　　② 女

・年　齢　①９才以下②10 代　③20 代　④30 代　⑤40 代　⑥50 代　⑦60 代　⑧70 代以上

・住　所　（　　　　）都道府県　（　　　　）市町村

2　どのような交通手段で来られましたか？

① 自家用車　② バス　③ タクシー　④ その他（　　　　）

3　七尾城跡のご来訪は何回目ですか？

① はじめて　② ２回　③ ３回　④ ４回以上（回数：　　　）

4　ご来訪の目的を教えてください。

① 観光・行楽・レジャー　②学習・調査　③ その他（　　　　）

5　何が印象に残りましたか？（複数可）

① 石垣などの遺構群　② 自然環境　③ ガイド　④ その他（　　　　）

6　七尾城跡が国の史跡であることをご存知でしたか？

① 知っていた　②知らなかった

7　七尾城跡の整備事業を実施すべきでしょうか？

① 実施すべき　②実施すべきでない

8　７で①実施すべきと答えた方にどのように整備すれば良いかお聞きします。

① 建物復元　② 石垣などの遺構復元　③ 樹木伐採　④その他（　　　　）

9　７で②実施すべきでないと答えた方にその理由をお聞きします。

① 現状が良い　② 経費がかかるため　③ その他（　　　　）

10　七尾城跡に関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。

..................................................

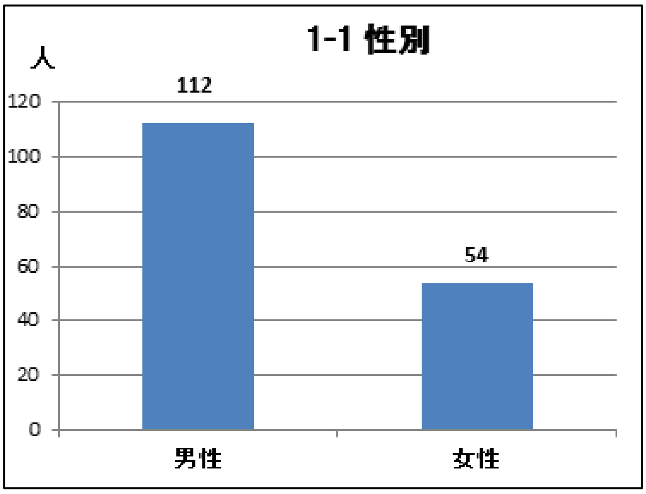
..................................................

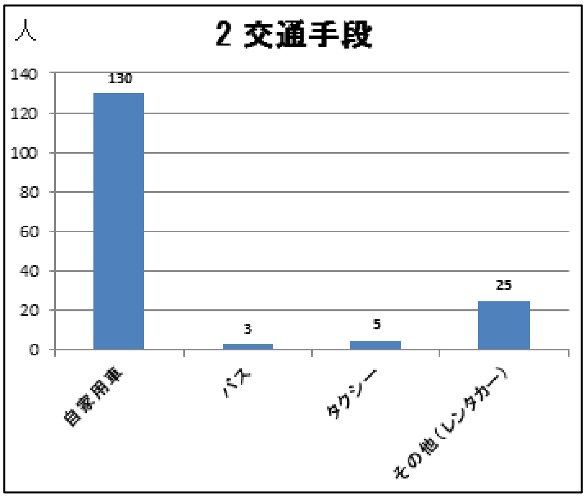
..................................................

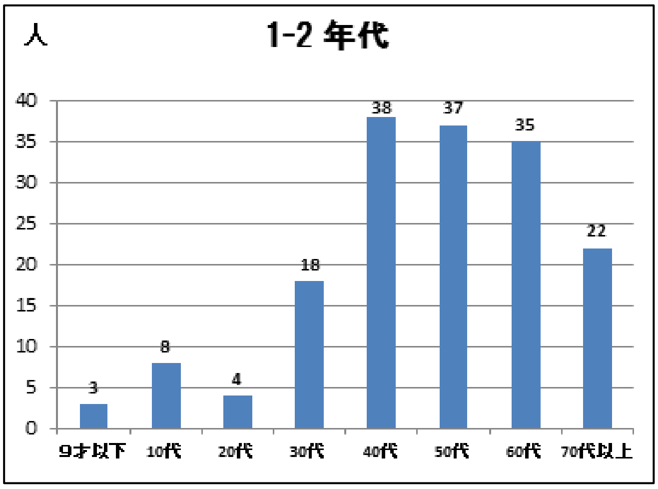
ご協力ありがとうございました。

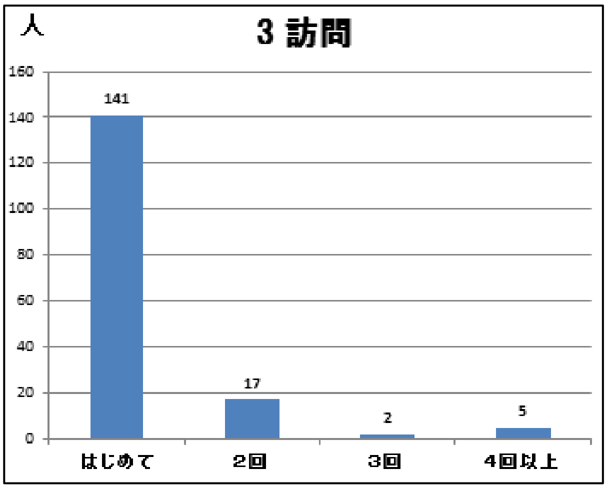
（アンケート記入日　平成　　年　月　　日）

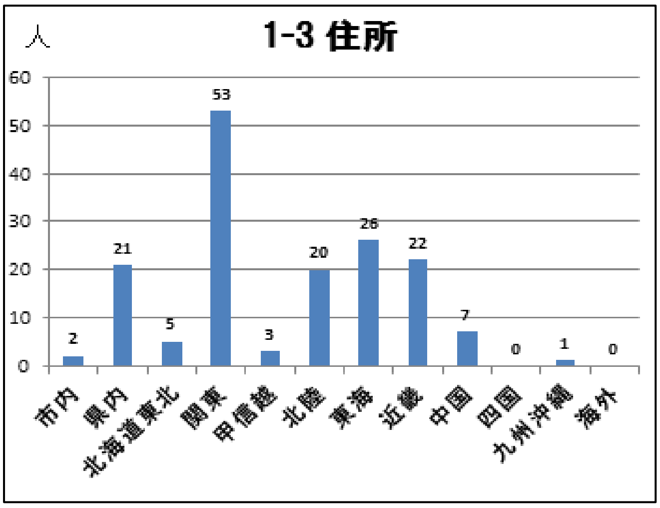
③アンケート結果

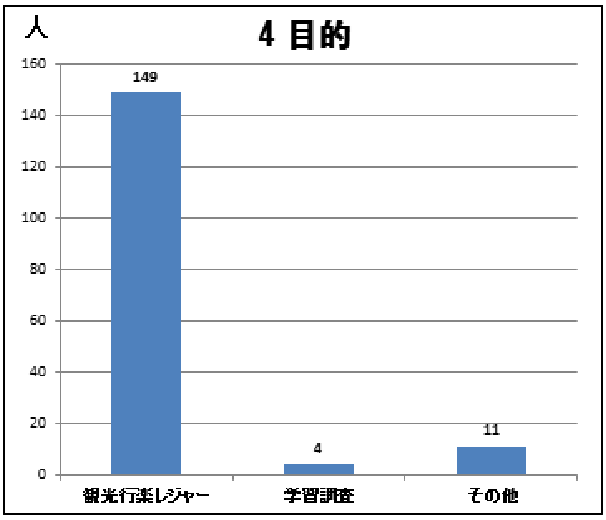

1-1 性別
人
120
100
80
60
40
20
0
112
54
男性
女性

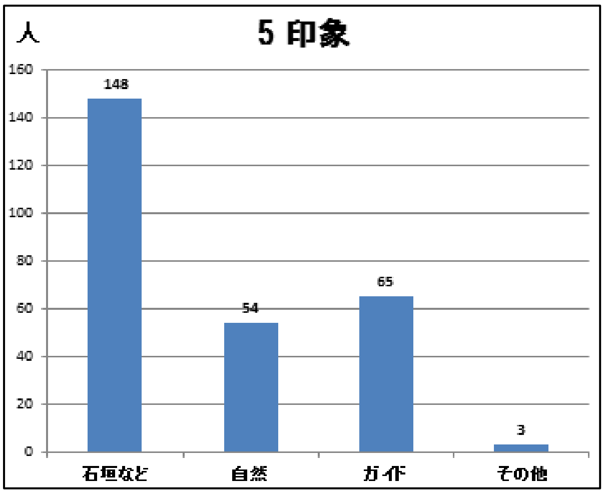

2 交通手段
人
140
120
100
80
60
40
20
0
130
3
5
25
自家用車
バス
タクシー
その他（レンタカー）

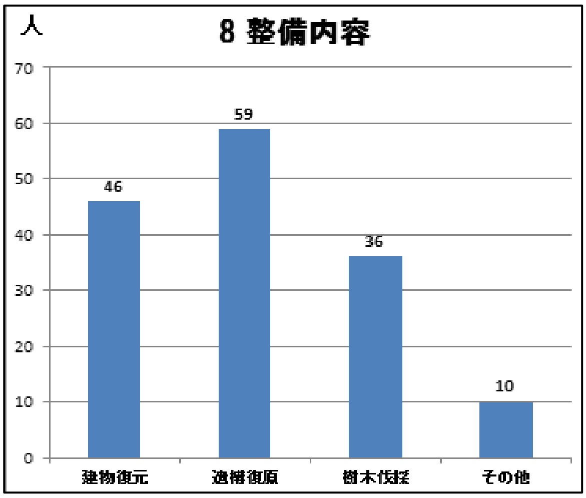

1-2 年代
人
40
35
30
25
20
15
10
5
0
3
8
4
18
38
37
35
22
9才以下
10代
20代
30代
40代
50代
60代
70代以上

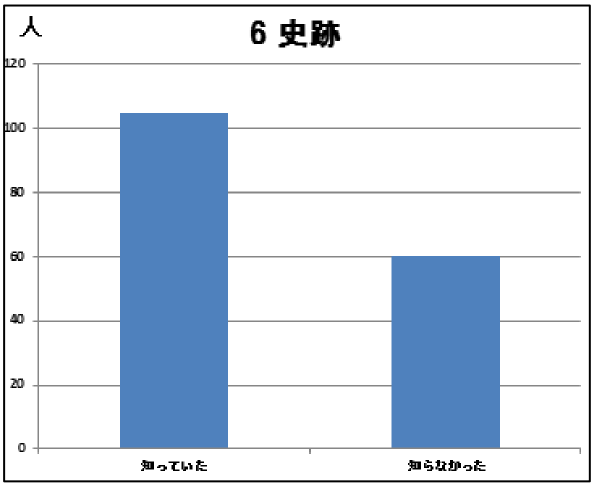

3 訪問
人
160
140
120
100
80
60
40
20
0
141
17
2
5
はじめて
2回
3回
4回以上

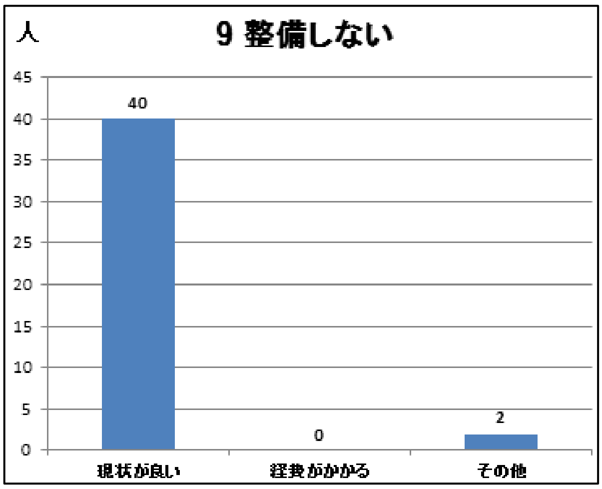

1-3 住所
人
60
50
40
30
20
10
0
2
21
5
53
3
20
26
22
7
0
1
0
市内
県内
北海道東北
関東
甲信越
北陸
東海
近畿
中国
四国
九州沖縄
海外

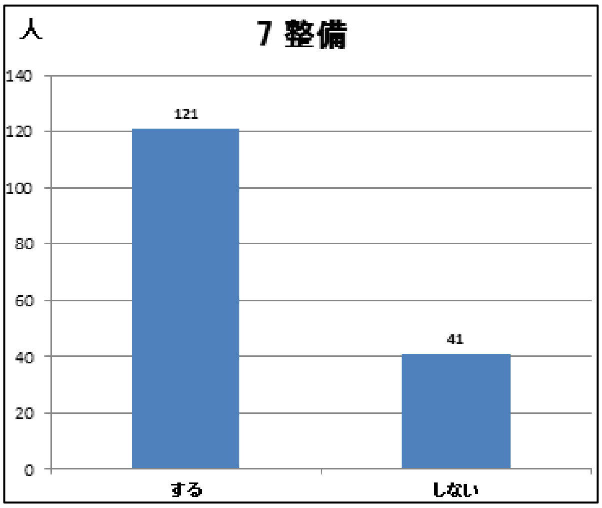

4 目的
人
160
140
120
100
80
60
40
20
0
149
4
11
観光行楽レジャー
学習調査
その他


人
5 印象
160
140
120
100
80
60
40
20
0
148
54
65
3
石垣など
自然
ガイド
その他


人
8 整備内容
70
60
50
40
30
20
10
0
46
59
36
10
建物復元
遺構復原
樹木伐採
その他


人
6 史跡
120
100
80
60
40
20
0
知っていた
知らなかった


人
9 整備しない
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
40
0
2
現状が良い
経費がかかる
その他


人
7 整備
140
120
100
80
60
40
20
0
121
41
する
しない

# 10 感　想

## 意見

・獣対策等、保安の対策が出来ればと思っている。
・進入路の整備をしてほしい。
・建物は建てず、このまま遺構を保存して欲しい。
・展望をよくして欲しい。
・より整備された七尾城を再び見学したい。
・駐車場までの道路整備を進めてもらいたい。
・七尾城武将隊がいたら盛り上がると思う。
・とても良い CG 画像があるのでもっと大きい画像にしてわかりやすい展示にすれば良いと思う。
・歴史的な経過とともに七尾城の構造や山城としての守りの工夫などのお話が聞けたらと思った。
・歩きやすいところとぬかるむところがあった。
・整備したほうがいいと思うが、人工的にしないように。説明版をスマホで見ると CG が見れるといい。(AR)
・樹木伐採して展望をよくするといいと思う。
・手入れもされていて素晴らしいが、城の復元がされていればより素晴らしいと思う。
・夏は自販機があるとうれしいです。
・自然が豊かに残っていて素晴らしい反面、景色が見にくいところがあって伐採するか残すか難しいとは思うが頑張ってほしい。
・VR があれば面白いと思う。
・上杉がなかなか落とせなかった城としてもっと PR してもいいと思う。
・日本 100 名城にも数えられる貴重な観光資源。もっと国内外にアピールしてほしい。
・整備してもいいが歴史的なものは残して大切にしてほしい。
・山城の景観を、多少木を伐採してよくしてほしい。
・草が多く整備されると歩きやすくなると思います。
・木が多く景色が見えにくかった。

## 感想

・ガイドさんの詩吟がよかった、よく整備されている。
・道に木くずが敷き詰められていて歩きやすかった。ガイドが楽しかった。
・自然がきれいで感動した。
・よく整備されており、歩きやすくよかった。
・大変に素晴らしい史跡で大満足であった。歴史が好きなのでまた来たい。
・自然のままの七尾城素敵でした。
・ボランティアガイドに感謝です。島根にも七尾城がある。
・ガイドさんのご説明が本当にわかりやすく、昔の様子を思い浮かべる気持ちで見ることが出来た。これてよかった。
・手入れが行き届いていてよかった。案内もよかった。
・とても景色がよかった。何回も石川に来ているのに初めて登った。高くて広くてよく整備されてよかった。
・今回、２回目で、前回はふもとからトレッキングで登った。素晴らしい山城を仲間たちに見せたかったので

企画してきました。
・歴史を知ることと、遺産として残すことは大切だと感じた。
・景色が非常によかった。
・自然のままが非常に良かった。七尾城に関する歴史の勉強になりました。
・自然環境が豊かで気持ちよかった。整備していただいていることに感謝。
・ガイドさんの説明が分かりやすくて楽しかった。
・テレビで見ただけではわからないことを親切に教えていただき、七尾城跡の素晴らしさを理解することができた。
・感動した。また来たい。見事な石垣でした。素晴らしかった。
・石垣に歴史があってきれいでした。本丸からの景色もきれいだった。
・CG を見た後に城跡を見たのでとてもイメージが膨らみました。楽しかったです。
・自然も多く、子供にも良い遊び場になった。夏でも風もあり涼しくクーラーもいらない。もっと主張してもいいと思う。とても良いところだと感じた。
・とても立派な石垣でびっくりした。素晴らしかったです。ここまで来てよかった。
・大迫力で感動した。とても楽しめた。
・本丸の石垣が素晴らしかった。お城の配置が素晴らしかった。
・こんな山の上に城があるのがすごいと思う。
・石垣が素晴らしく眺めも良い。
・石垣が立端で感動した。
・石垣が素晴らしく、道も程よく整えられていた。
・前田利家の若かりし頃のロマンを感じた。
・整備されていて歩きやすかった。
・素晴らしい景色で分かりやすいガイドでとても満足できました。
・石垣の積み方が歴史を感じた。ガイドさんが分かりやすかった。
・山城の中でも遺構がとてもよく残っていて、最も印象に残った。
・ある程度整備されていても、一周するのが大変で築城や攻略の時にどのように工夫したのかが気になりました。一通り見てからの本丸の石垣は一層圧巻でした。
・自然が豊かで素晴らしかった。石垣もちゃんと残されていて、このまま残していってほしい。
・CG のおかげで充分楽しめました。
・初めて来ましたが、石垣が立派に残っていて感動した。思わぬ楽しい歴史跡巡りが出来た。
・初めて来ましたが本丸からの景色、石垣ともにとてもよかった。たまたま寄ったためサンダルだったが、今度はズックで来たいと思う。
・杖の貸し出しがあり、周遊が楽になった。
・石垣の石の積み重ねの人力を思うと大変だったと思う。本丸からの七尾の町の景色が素晴らしかった。
・千田嘉博先生の TV を見て来たいと思いました。
・程よく自然のままでありながら歩道もきれいに整備されていてとても歩きやすかった。石川に住んでいながら知らないことばかりで、丁寧にガイドしていただきましてありがたかったです。
・自然が美しく、また来たい。
・苔むした石垣、自然の姿がとても感動しました。
・山登りできたり、昔の様子を知ったりして、冒険しているようでとても楽しかったです。
・石垣が素晴らしく、見応えがあった。

## （２）七尾城跡に関する新聞報道

### ①新聞報道一覧

（平成 31 年/令和元年度分）

| | |
|---|---|
| 5 月 19 日（日） | 北國新聞／七尾城　修学旅行生が満喫／誘致の呼び水に |
| 7 月 29 日（月） | 北陸中日新聞／水源復活　七尾城　湧く期待／能登半島地震で激減・・・12 年ぶりもとの水量に |
| 10 月 16 日（水） | 北國新聞（夕）／七尾城跡で山岳救助訓練 |
| 10 月 17 日（木） | 北國新聞／山岳事故の対応確認／七尾城跡で合同訓練 |
| 10 月 18 日（金） | 北陸中日新聞／山菜採りで転落崖下へ救助急げ／七鹿消防と県防災航空隊が訓練 |
| 11 月 24 日（日） | 北陸中日新聞／七尾城　秋の陣／険しい古道登り　謙信ほめた絶景へ／全国から 110 人　山頂で「歴弁」振る舞い |
| 12 月　5 日（日） | 北國新聞／七尾城跡　災害に　備え万全／崩壊斜面　新工法で復旧／整備推進、周辺遺構守る |
| 12 月　7 日（日） | 北陸中日新聞／「七尾城、金沢城と一体発信を」／千田・奈良大教授訴え／北陸中日懇話会　千田嘉博さん講演要旨 |
| 1 月　5 日（日） | 北國新聞／山の上で政治も生活も／お城ブームってすごい／ほくりく散歩道 |
| 2 月　9 日（日） | 北國新聞／七つの尾根　名称いろいろ／烏帽子、袴など登場／史料で変遷続く／県内研究者が調査 |
| 2 月 16 日（日） | 北國新聞／七尾城跡　誘客に本腰／野面積みの石垣見やすく／園路の柵、ベンチ改修 |

## 令和元年度　広報ななお「七尾城跡関連記事」の連載について

◇期　間：令和元年６月号～令和２年３月号まで（全１０回）

◇掲載スペース：広報１／２頁（別紙参照、本文６００字前後、写真・図込み）

◇掲載内容と目的：七尾城に関するコラム記事や季節ごとの美しい写真、道路の復興状況、著名人のコメントなどを紹介することにより、**市民一人一人が七尾城の魅力や価値を知り、まちづくりへの活用やＳＮＳ等を使った魅力発信に繋げることを目的とする。**

◇掲載の流れ：発行月の前々月末までに原稿を広報担当者に提出する。
（例 - R1 ６月号掲載→2.4.30 までに提出）

◇原稿作成　：
６月　善端　直（室長）
「さあ、七尾城へ行こう！」
７月　佐野　藤博（はろーななお会長）
「一番人気になる魅力とは」
８月　土山　浩之（ＮＨＫ大阪放送局　制作ディレクター）
「山城」番組には最新技術が欠かせない
９月　飯田　伸一（第 78 回七尾城まつり実行委員会会長）
「第７８回七尾城への思い」
１０月 市内在住　歴史ファン（中島町藤山さん）
「何も無いんじゃなくて何も知らなかった七尾城のこと」
１１月　塚林　康治（七尾市文化財保護審議会　会長）
麓に広がる「七尾城」
１２月　塚林　康治（七尾市文化財保護審議会　会長）
「隠し道」もう１本の登り道
１月　北林　雅康（室員）
「七尾城トレッキング～秋の陣～」
２月　冨田　和気夫（金沢城調査研究所担当課長）
「石垣のコアな見方、楽しみ方」
３月　北野　博司（東北芸術工科大学教授）
「七尾城を守り伝えるために」

# 七尾城探訪の抜粋

●ここでは６月より広報「ななおごころ」にて連載開始した、「七尾城探訪」を抜粋し掲載する。

七尾城探訪 新連載

6月号から10回に分けて七尾城の魅力をお伝えします。

## さあ、七尾城へ行こう

スポーツ・文化課　善端　直

**今、七尾城が注目！**

発掘や航空レーザー測量で屋敷地や石垣などの実態が徐々に解明。今では戦国時代を代表する山城として、全国的に注目されています。

**苔むした石垣は宝の石垣**

多くの人は「何も残ってない。あるのは苔むした石垣だけ」と思っているでしょう。しかし七尾城の石垣は、自然の石をそのままの形で積み上げる野面積みという珍しい手法を使用。これほど壮大な野面積みは県内では見当たりません。どうして七尾城にだけ？重機がない時代にどのように巨大な九尺石を積み上げたのか？苔むした石垣が城造りの謎を投げ掛けてくれます。

**この目で見てみよう**

七尾城には石垣のほか広大な屋敷地やそれを分断する大堀切りなど、城の痕跡が多く残っています。当時の様子を復元したＣＧ看板を参考に「難攻不落」の七尾城を想像しながら散策してみませんか。宝の石垣だけでなく、上杉謙信が絶賛した眺望が皆さんをお待ちしています。

苔むした野面積みの石垣

幅約2.7メートル、重さ約2トンの九尺石（写真中央の巨石）

足軽に扮（ふん）して七尾城を巡る春風亭昇太師匠

13　七尾ごころ 2019.6

七尾城探訪 新連載

毎月担当者を代えて七尾城の魅力をお伝えします。

## 一番人気になる魅力とは

七尾市観光ボランティアガイドはろうななお　会長　佐野 藤博

七尾市観光ボランティアガイドはろうななおは、結成して今年で25年目を迎え、昨年度は約9,300人の観光客を案内しました。その中でも一番人気があるのは七尾城です。

本丸駐車場から１歩足を踏み入れると、青々とした力強い杉木立が迎え、木漏れ日と静寂な空間は戦国時代の当時と変わらない幻想的な雰囲気を感じさせます。遊歩道を進むと、パンフレットの表紙である杉木立から徐々に垣間見える4段の野面積みの石垣が現れ、観光客はこぞってその壮大さに圧倒されます。息を切って石段を上がりようやく本丸にたどり着くと、目の前には大伴家持が巡行した七尾湾や能登半島を一望できる絶景が広がり、その眺望に驚きの声を隠せません。「こんな山の上に城を築くなんて凄い！」と。

七尾城は昭和9年に国指定史跡、平成18年に日本百名城に認定されました。難攻不落の七尾城や、あの上杉謙信に「絵像に写し難き景勝」と言わしめた眺望を、さらなる魅力あるガイドで多くの観光客に伝え広めていきたいと思います。

観光客を案内する観光ボランティアガイド

パンフレットの表紙

本丸から一望できる七尾湾

13　七尾ごころ 2019.7

## 七尾城探訪

毎月担当者を代えて七尾城の魅力をお伝えします。

### 「山城」番組には最新技術が欠かせない!

**NHK大阪放送局　制作ディレクター　土山 浩之**

今年1月に放送した歴史秘話ヒストリア「戦国、山城を動かす」という番組で、七尾城について制作・取材しました。その制作秘話をお伝えします。

標高およそ300m、7つの尾根に広がる七尾城のスケール感を伝えるには、最新技術のドローン撮影が欠かせません。本丸の3段石垣から上昇して、広大な城域を見渡してみると、改めて400年前の土木技術の高さを感じられます。

番組では、市が２年前に行った航空レーザー測量を参考に地形データを作成し、ドローン映像からＣＧ地形図に乗り代わる演出を行いました。外観からは木々が生い茂り、山にしか見えない場所に戦国時代を生きた人々の知恵と価値観が浮かび上がってきます。大名が家臣に守られていないことなどから「大名と家臣は対等だった」という、戦国乱世の実像も明らかになりました。新たな歴史研究の舞台にもなっている七尾城に、ぜひ皆さんも足を運んで体感してみてください。

ドローンで撮影した本丸と3段石垣
（「歴史秘話ヒストリア」提供）

ドローン映像から乗り代わったCG地形図
（「歴史秘話ヒストリア」提供）



## 七尾城探訪

毎月違う担当者から七尾城の魅力をお伝えします。

### 第78回七尾城まつりへの思い

**第78回七尾城まつり実行委員会　会長　飯田　伸一**

今年で78回目を迎える七尾城まつりは、昭和17年10月に、七尾城址の石碑が本丸跡に建立され、国指定に尽力された人や七尾城跡を世に広めた人などの偉業をたたえ開催されたのが始まりです。戦中戦後の時代でも途切れることなく開催され、郷土愛と熱意に満ちた先人たちの運動や功績は、七尾城の歴史的価値とともに私たち地域住民にとってかけがえのない財産になっています。

先人の思いを受け継ぎ「難攻不落の七尾城」で開催されてきた七尾城まつりは、立地的に厳しく人手不足の中で、毎年地域住民の支えと創意工夫をもとに運営されています。今年は「癒し」「遊ぶ」「学ぶ」をテーマに掲げ、本丸跡地に神社祭や奉納太鼓、奉納剣舞、チビッ子サムライ武者行列などを行います。新たなにぎわいづくりとして、山麓に城下町を形成していた七尾城の実態を受け、麓の七尾市城山体育館で楽市・楽座を設置し、盛りだくさんの演舞やアトラクションの実演も行います。9月14日(土)に前夜祭、9月15日(日)に本祭を開催しますのでぜひお越しください。

上杉軍と畠山軍、本丸で仲良く記念撮影

チビッ子サムライ武者行列（天神山小5年生）

## 七尾城探訪

毎月違う担当者から七尾城の魅力をお伝えします。

### 何も無いんじゃなくて何も知らなかった七尾城のこと

市内在住　歴史ファン

平成26年に参加した七尾城での城あるき。戦国時代よりも奈良時代あたりが好きな私にとって、七尾城にはあまり興味が湧かず「ここに何があるというのだ?」と思っていました。

しかし、そんな思いは講師の奈良大学の千田嘉博教授とゲスト講師の春風亭昇太師匠により見事に払拭されました。一見何もない山の中の土手や谷、獣道のような細道が何であるか、どんな意味があるのかを、まるで宝物を見せるかのような解説。「よくこんな巨石や大木を山の上まで持って来れましたね」と感嘆し、全身から城好きが溢れ出ていた二人。素人にも理解しやすく、お城ファンも納得できる解説で正直時間が足りませんでした。ぜひ何度でも足を運んでほしいです。

千田教授は「七尾城はまだまだ整備できる。整備すればもっと当時の様子が分かり、大切な観光資源になる」と話していました。個人的には、畠山氏が七尾城で開催した歌会の講義が開催されたらいいなと思っています。七尾市さん、ぜひよろしくお願いします。

千田教授と春風亭昇太師匠による七尾城の解説

山に運んで積み上げた石垣の解説



## 七尾城探訪

毎月違う担当者から七尾城の魅力をお伝えします。

### 麓に広がる「七尾城」

七尾市文化財保護審議会　会長　塚林　康治

旧道を登らずとも、麓で十分に七尾城をイメージできます。

その昔、東福寺の禅僧・彭叔守仙が来城し、「(農免道路周辺)一帯には家並が一里余も連なり、市は多彩な物の売り買いで賑わっている」とその様を「独楽亭記」(天文13年・1544)に遺しています。今は水田で面影はありませんが、地下にはその頃の人々の遺構が静かに眠っています。しかし、田畑の俗称地名がその存在を教えてくれます。ほんの一例として、

①**「カンジャ畑」**。能越道建設に伴う緊急発掘調査で、溶けた金が付着した坩堝や炉跡が出土し、鍛冶屋集団がいたことが判明しました。カンジャとは「カジヤ」のことだったのです。

②**「シッケ地区遺跡」**。平成3年のデイサービスセンター建設による発掘調査で、住居跡からげたや漆椀などの生活用品が出土。湧水地のためシッケと呼ばれてきましたが、おかげで遺物が腐ることなく地下保存されていました。

俗称地名も歴史史料です。いつの日か、七尾版「一乗谷遺跡」として当時と変わらないそのままの姿が出現することでしょう。

カンジャ畑から出土した坩堝
(公財)石川県埋蔵文化財センター提供

シッケ地区遺跡(古屋敷町)

## 七尾城探訪

## 「隠し道」もう1本の登り道

**七尾市文化財保護審議会　会長　塚林　康治**

七尾城へ登る道は旧道(大手道)だけでなく、実はもう1本あります。しかし、地元の人以外にはほとんど知られていません。

矢田町大門地区から城山展望台へ続く「小松原道」。尾根筋を掘り込んで作られ、最深部は3mほどあります。旧道とは比較になりません。土橋や土塁、落とし石、迷路などの防御面を備え、山頂手前では自動車道建設で寸断された大門道（道路脇に遺構あり）につながっています。

この素晴らしい登り道が、なぜか江戸時代の幾多の古地図にも記されていません。平成5年、これを知った当時の東部中学校3年生たちは、きっと知られたくない秘密の道なんだろうと、通称「隠し道」と呼び合ってきました。

隠し道を世に広めたのは、この中学生たち。保護者や学校、市商工観光課、校区民、地方史研究者など総勢400人余りで登山道の草刈り作業を実施し、全貌を明らかにしました。その後、有志の生徒たちが自力で登り道を測量し、歴史的背景を研究した結果、郷土史の研究活動に優れた成績を上げたものに与えられる「本岡三郎郷土文化賞」第1号を受賞しました。

尾根筋を掘り込んで作られた小松原道

隠し道を塞ぐ巨石と測量する中学生



## 七尾城探訪

毎月違う担当者から七尾城の魅力をお伝えします。

## 七尾城トレッキング ～秋の陣～

**能登の國七尾城プロジェクト実行委員会　副実行委員長　北林　雅康**

昨今の山城ブームで、七尾城には大勢の観光客が来城しています。大半は本丸駐車場まで車で来ますが、麓から旧道を通って登る観光客が増えています。家族連れや女性1人で登ることも珍しくありません。

そんな中で、令和元年11月23日㈯に「第1回トレッキング＆秋の味覚～七尾城・秋の陣～」を開催しました。全国から定員100人を超える応募があり、好天の中、錦秋の城山を大手道コースと隠し道コースに分かれて歩きました。本丸からの絶景を眺めながら室町時代の饗応料理を復元した「七尾城歴弁」を食し、当時にタイムスリップした気分になった後は、七尾城の解説を聞きながら下山し、笑顔でゴール。参加記念としてオリジナル七尾城Tシャツや限定ご城印、缶バッジをプレゼントしました。

参加者から大好評をいただきましたので、令和２年に第２回を開催する予定です。その際は、ウェブサイト「能登の國七尾城プロジェクト」などでお知らせします。ぜひお楽しみに。そして、これからももっと七尾城ファンを増やせるように、魅力を再発見できるイベントを発信していきます。

隠し道の急坂にチャレンジ！

七尾一帯を見渡しながらお昼ご飯。

## 七尾城探訪

毎月違う担当者から七尾城の魅力をお伝えします。

### 石垣の見方、楽しみ方

石川県金沢城調査研究所　総括担当課長　冨田　和気夫

　七尾城は石垣の名城。「でも石垣の何が面白いの？どこを見ればいいの？」。今回はそんな声に応えて、石垣を見る秘訣を伝授しましょう。

**①石垣は離れて見る**　正面から遠目で石垣の全体を眺めてください。石垣は1段ごとに石を積み上げて造られるため、下から上へ石の積み方を追いかけると、その積み上げる過程がイメージできます。

**②石垣は近づいて見る**　石の向きや支点の位置など、石の置き方に注目します。「石が行きたいところに行かす」。それが多様な自然石を安定的に積み上げる極意だそうです。

**③石垣は横から見る**　石垣を造る現場には、造る場所や出来上がりの高さ、傾斜の目安を示すために縄や板が張られます。真っすぐに延びた石垣、弧を描いて延びた石垣などがあり、その微妙な違いに石垣の技術と歴史をひもとく鍵が秘められています。

　あっと、もう与えられたスペースが尽きてしまいました。石垣を見る秘訣はまだまだあります。続きは、いずれまた。

自然石を積み上げた安定感のある石垣

弧を描いて延びた低い石垣



## 最終回　七尾城探訪

毎月違う担当者から七尾城の魅力をお伝えします。

### 七尾城を守り伝えるために

東北芸術工科大学歴史遺産学科教授　北野　博司

　市民にとって七尾城はあって当たり前の存在で、無関心な人も少なくないことでしょう。それくらい日常の風景と意識の中に溶け込んでいます。首里城の火災のように、人は失って初めてその存在の大きさに気付きます。

　住民の誇りと帰属意識を育み、学校教育や生涯学習、まちづくり、観光に生かせるのが文化財です。しかし、人々の生活形態や価値観が多様化し、地域コミュニティのあり方が変化してきた現代、この地域の宝を行政だけでは守りきれなくなっています。そのため、各地で市民やNPO、企業などが連携し、社会総がかりで継承する取り組みが始まっています。

　私が関わっている羽州街道楢下宿金山峠越（うしゅうかいどうならげじゅくかねやまとうげごえ）（山形県）という史跡では年3回、市民ボランティアが市職員とともに除草や倒木処理、遊歩道の整備に汗を流しています。昼には地元の「ばあちゃんずくらぶ」が作る郷土料理を食べ、作業途中には専門家が歴史や自然観察のガイドをしてくれ、楽しく取り組んでいます。

　今、山城歩きはブームです。健康増進やレクリエーション、憩い、学習など、市民が自分に合った「七尾城」を発見し、楽しむことが重要だと思います。

七尾高等学校の生徒による七尾城の遊歩道整備

市民ボランティアによる金山峠越の保全活動

令和元年度　七尾城跡保存活用推進室年報（七尾城跡保存活用推進室　年報２）

編　集　七尾市教育委員会スポーツ・文化課 七尾城跡保存活用推進室
発　行　七尾市教育委員会
発行日　令和２年３月 30 日
〒926－8611　石川県七尾市袖ケ江町イ部 25 番地
TEL 0767－53－8437　FAX 0767－52－5194
E-mail：sportsbunka@city.nanao.lg.jp

〔表紙解説：七尾城全景（ドローン撮影）〕